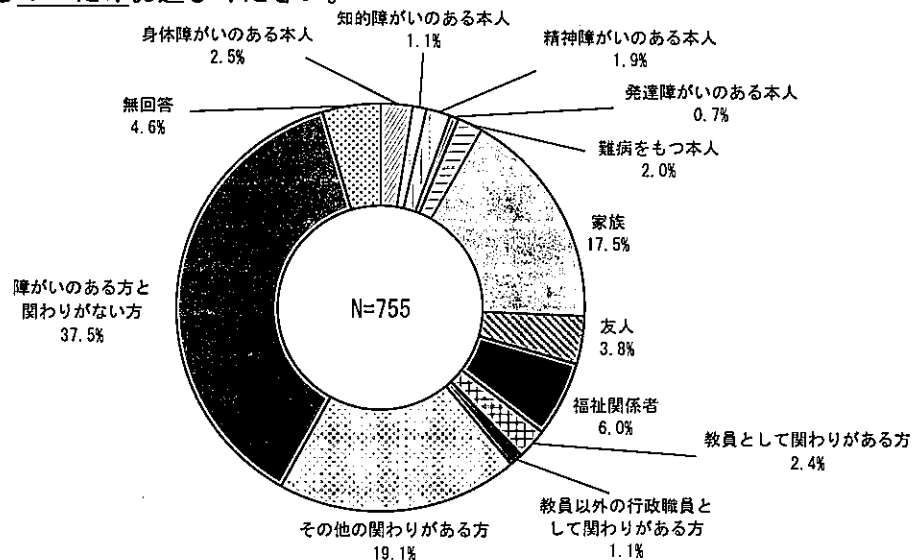


## 5 障がい者の差別の解消の推進について

問 23 あなたと障がいのある方との関係について教えてください。  
次の中から1つだけお選びください。



### 【全体】

「障がいのある方と関わりがない方」(37.5%)と答えた人の割合が最も高く、次いで「その他の関わりがある方」(19.1%)、「家族」(17.5%)の順となっている。

### 【圏域別】

「障がいのある方と関わりがない方」については、道央広域連携地域(40.0%)が最も割合が高く、次いで道南連携地域(37.5%)となっている。「その他の関わりがある方」については、十勝連携地域(36.4%)が最も割合が高く、次いでオホーツク連携地域(22.6%)となっている。

### 【人口規模別】

「障がいのある方と関わりがない方」については、札幌市(44.1%)が最も割合が高く、次いで人口10万人以上の市(36.2%)となっている。「その他の関わりがある方」については、札幌市(20.9%)が最も割合が高く、次いで人口10万人以上の市(19.9%)となっている。

### 【性別】

「障がいのある方と関わりがない方」については、男性39.4%、女性35.8%となっており、「その他の関わりがある方」については、男性21.8%、女性16.9%となっている。

### 【年代別】

「障がいのある方と関わりがない方」については、18～29歳(49.4%)が最も割合が高く、次いで40～49歳(39.9%)となっている。「その他の関わりがある方」については、30～39歳(25.6%)が最も割合が高く、次いで40～49歳(19.7%)となっている。

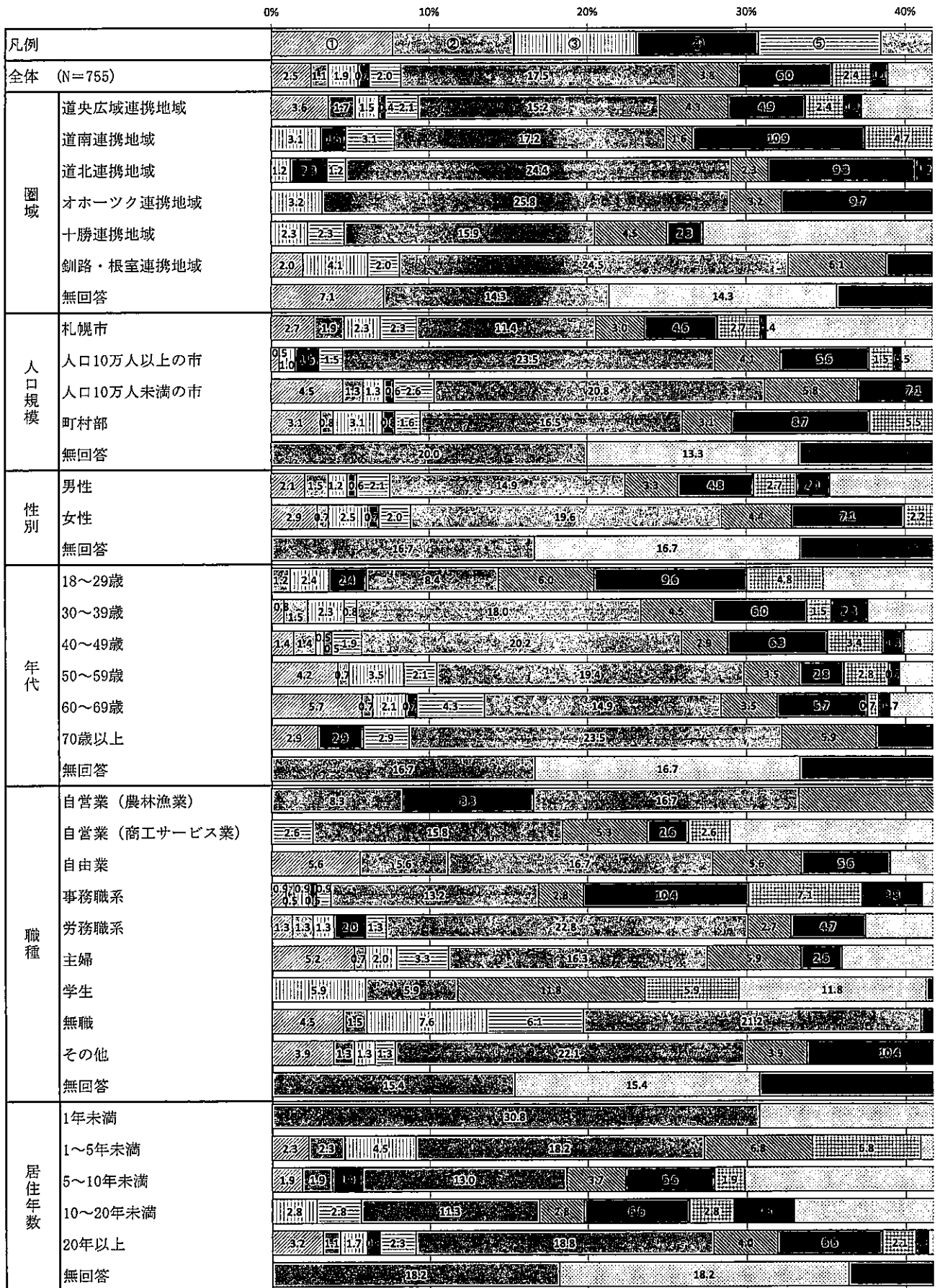
### 【職種別】

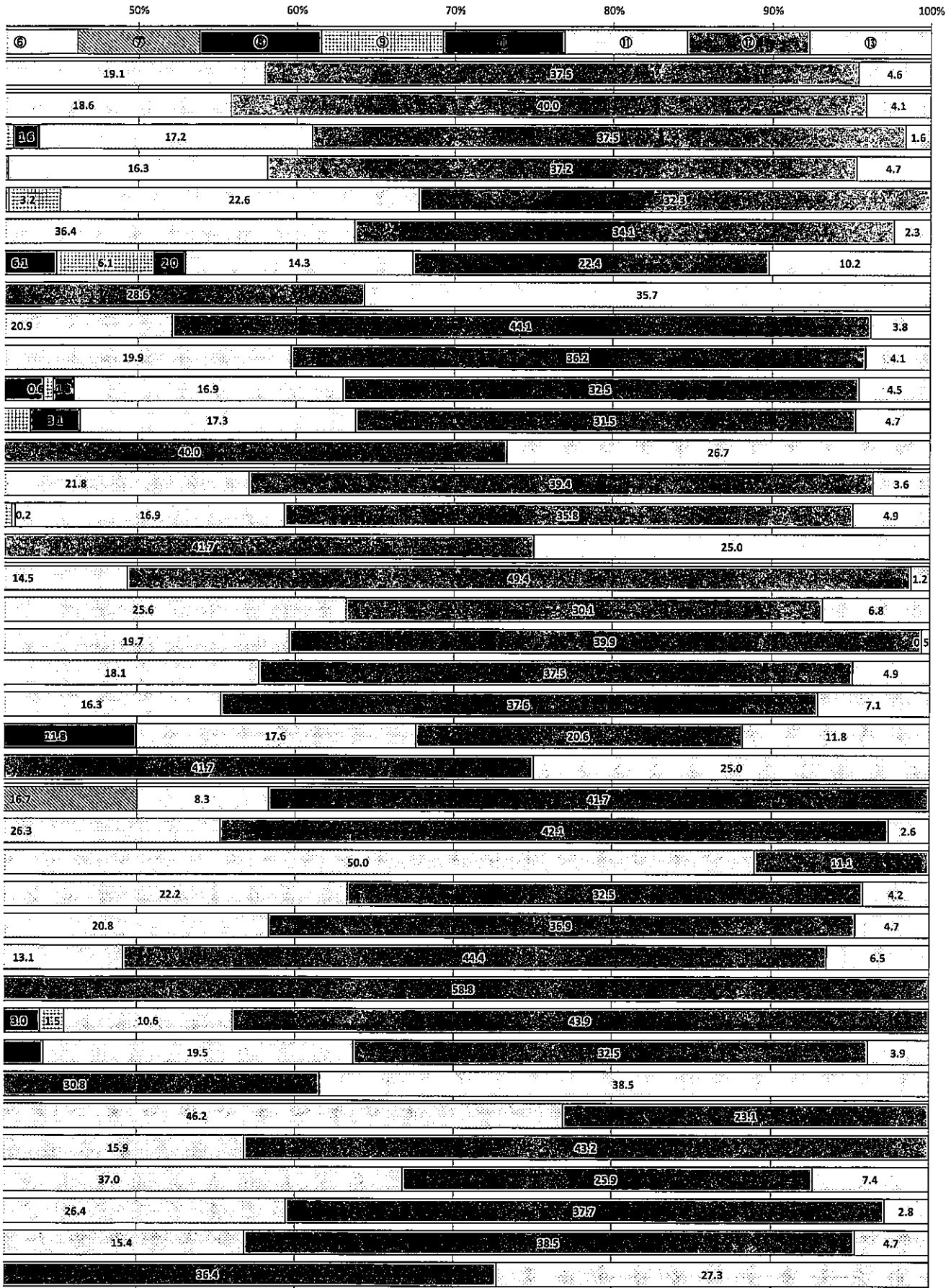
「障がいのある方と関わりがない方」については、学生(58.8%)が最も割合が高く、次いで主婦(44.4%)となっている。「その他の関わりがある方」については、自由業(50.0%)が最も割合が高く、次いで自営業(商工サービス業)(26.3%)となっている。

### 【居住年数別】

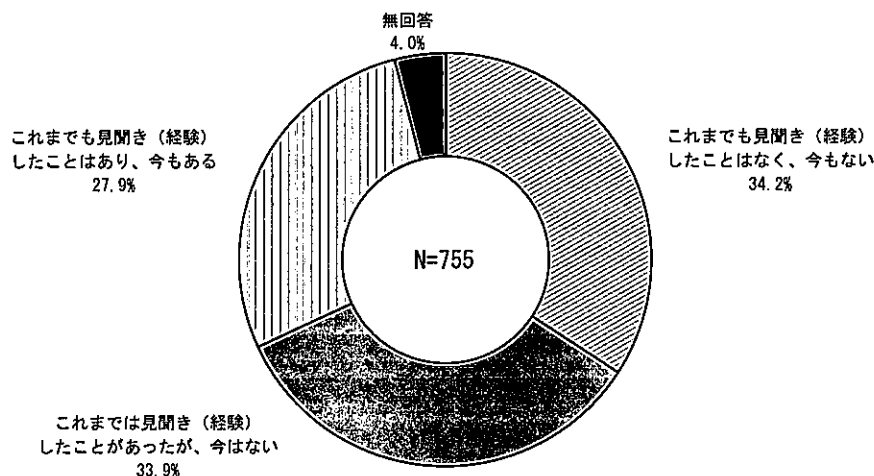
「障がいのある方と関わりがない方」については、1～5年未満(43.2%)が最も割合が高く、次いで20年以上(38.5%)となっている。「その他の関わりがある方」については、1年未満(46.2%)が最も割合が高く、次いで5～10年未満(37.0%)となっている。

- ①身体障がいのある本人    ②知的障がいのある本人    ③精神障がいのある本人    ④発達障がいのある本人  
 ⑤難病をもつ本人    ⑥家族    ⑦友人    ⑧福祉関係者    ⑨教員として関わりがある方  
 ⑩教員以外の行政職員として関わりがある方    ⑪その他の関わりがある方    ⑫障がいのある方と関わりがない方    ⑬無回答





問 24 あなたは障がいのある方に対する差別を見聞き（経験）したことはありますか。  
次の中から1つだけお選びください。



**【全体】**

「これまで見聞き（経験）したことはなく、今もない」（34.2%）と答えた人の割合が最も高く、次いで「これまでは見聞き（経験）したことがあったが、今はない」（33.9%）、「これまで見聞き（経験）したことはあり、今もある」（27.9%）の順となっている。

**【圏域別】**

「これまで見聞き（経験）したことはなく、今もない」については、釧路・根室連携地域（36.7%）が最も割合が高く、次いでオホーツク連携地域（35.5%）となっている。「これまでは見聞き（経験）したことがあったが、今はない」については、十勝連携地域（54.5%）が最も割合が高く、次いで道南連携地域（37.5%）となっている。

**【人口規模別】**

「これまで見聞き（経験）したことはなく、今もない」については、町村部（39.4%）が最も割合が高く、次いで札幌市（35.7%）となっている。「これまでは見聞き（経験）したことがあったが、今はない」については、人口10万人以上の市（36.7%）が最も割合が高く、次いで人口10万人未満の市（34.4%）となっている。

**【性別】**

「これまで見聞き（経験）したことはなく、今もない」については、男性34.3%、女性34.6%となっており、「これまでは見聞き（経験）したことがあったが、今はない」については、男性34.0%、女性33.3%となっている。

**【年代別】**

「これまで見聞き（経験）したことはなく、今もない」については、70歳以上（44.1%）が最も割合が高く、次いで50～59歳（38.9%）となっている。「これまでは見聞き（経験）したことがあったが、今はない」については、18～29歳（53.0%）が最も割合が高く、次いで60～69歳（35.5%）となっている。

**【職種別】**

「これまで見聞き（経験）したことはなく、今もない」については、自営業（農林漁業）（58.3%）が最も割合が高く、次いで自営業（商工サービス業）（44.7%）となっている。「これまでは見聞き（経験）したことがあったが、今はない」については、学生（47.1%）が最も割合が高く、次いで自由業（44.4%）となっている。

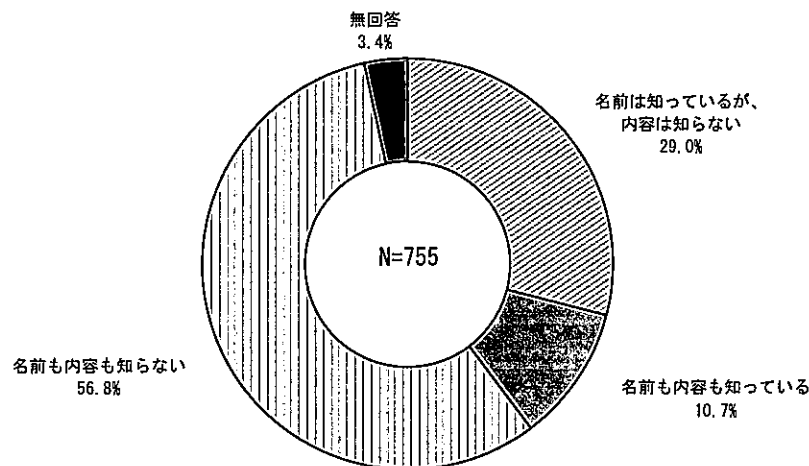
**【居住年数別】**

「これまで見聞き（経験）したことはなく、今もない」については、5～10年未満（40.7%）が最も割合が高く、次いで20年以上（35.5%）となっている。「これまでは見聞き（経験）したことがあったが、今はない」については、5～10年未満（35.2%）が最も割合が高く、次いで20年以上（34.0%）となっている。

- ① これまでも見聞き（経験）したことはなく、今もない  
 ② これまでは見聞き（経験）したことがあったが、今はない  
 ③ これまでも見聞き（経験）したことはあり、今もある  
 ④ 無回答

		0%	10%	20%	30%	40%	50%	60%	70%	80%	90%	100%
凡例		①		②			③		④			
全体 (N=755)		34.2		33.9			27.9		4.0			
圏域	道央広域連携地域	35.3		33.2			28.3		3.2			
	道南連携地域	29.7		37.5			31.3		1.5			
	道北連携地域	31.4		30.2			32.6		5.8			
	オホーツク連携地域	35.5		29.0			35.5					
	十勝連携地域	34.4		54.5			11.4					
	釧路・根室連携地域	36.7		24.5			28.6		10.2			
	無回答	21.4		42.9			7.1		28.6			
人口規模	札幌市	35.7		31.9			29.3		3.0			
	人口10万人以上の市	30.6		36.7			29.1		3.6			
	人口10万人未満の市	32.5		34.4			29.2		3.9			
	町村部	39.4		32.3			24.4		3.9			
	無回答	26.7		40.0			6.7		26.7			
性別	男性	34.3		34.0			29.0		2.7			
	女性	34.6		33.3			27.7		4.4			
	無回答	16.7		50.0			8.3		25.0			
年代	18～29歳	21.7		53.0			24.1		1.2			
	30～39歳	30.3		28.6			33.8		6.3			
	40～49歳	35.1		30.8			33.2		1.4			
	50～59歳	38.9		31.9			26.4		2.8			
	60～69歳	37.6		35.5			22.7		4.2			
	70歳以上	44.1		23.5			17.6		14.7			
	無回答	16.7		50.0			8.3		25.0			
職種	自営業（農林漁業）	58.3		41.7								
	自営業（商工サービス業）	44.7		34.2			18.4		2.6			
	自由業	16.7		44.4			38.9					
	事務職系	26.4		32.5			37.3		3.0			
	労務職系	37.6		38.9			20.1		3.4			
	主婦	40.5		30.7			24.8		3.0			
	学生	23.5		47.1			29.4					
	無職	37.9		33.3			25.8		3.0			
	その他	35.1		26.0			35.1		3.9			
	無回答	7.7		46.2			7.7		33.5			
	居住年数	1年未満	23.1		23.1			53.8				
1～5年未満		31.8		31.8			36.4					
5～10年未満		40.7		35.2			20.4		3.7			
10～20年未満		30.2		33.0			33.0		3.8			
20年以上		35.3		34.0			26.8		4.0			
無回答		9.1		54.5			9.1		27.3			

問 25 平成28年4月1日に施行された障害者差別解消法を知っていますか。  
次の中から1つだけお選びください。



#### 【全体】

「名前も内容も知らない」(56.8%)と答えた人の割合が最も高く、次いで「名前知っているが、内容は知らない」(29.0%)、「名前も内容も知っている」(10.7%)の順となっている。

#### 【圏域別】

「名前も内容も知らない」については、オホーツク連携地域(67.7%)が最も割合が高く、次いで道央広域連携地域(58.7%)となっている。「名前知っているが、内容は知らない」については、十勝連携地域(36.4%)が最も割合が高く、次いで道南連携地域(32.8%)となっている。

#### 【人口規模別】

「名前も内容も知らない」については、札幌市(62.0%)が最も割合が高く、次いで人口10万人未満の市(60.4%)となっている。「名前知っているが、内容は知らない」については、町村部(32.3%)が最も割合が高く、次いで人口10万人以上の市(31.1%)となっている。

#### 【性別】

「名前も内容も知らない」については、男性56.1%、女性58.1%となっており、「名前知っているが、内容は知らない」については、男性29.6%、女性28.4%となっている。

#### 【年代別】

「名前も内容も知らない」については、18～29歳(66.3%)が最も割合が高く、次いで30～39歳(62.4%)となっている。「名前知っているが、内容は知らない」については、70歳以上(47.1%)が最も割合が高く、次いで60～69歳(38.3%)となっている。

#### 【職種別】

「名前も内容も知らない」については、自営業(農林漁業)(75.0%)が最も割合が高く、次いで学生(70.6%)となっている。「名前知っているが、内容は知らない」については、無職(48.5%)が最も割合が高く、次いで自由業(33.3%)となっている。

#### 【居住年数別】

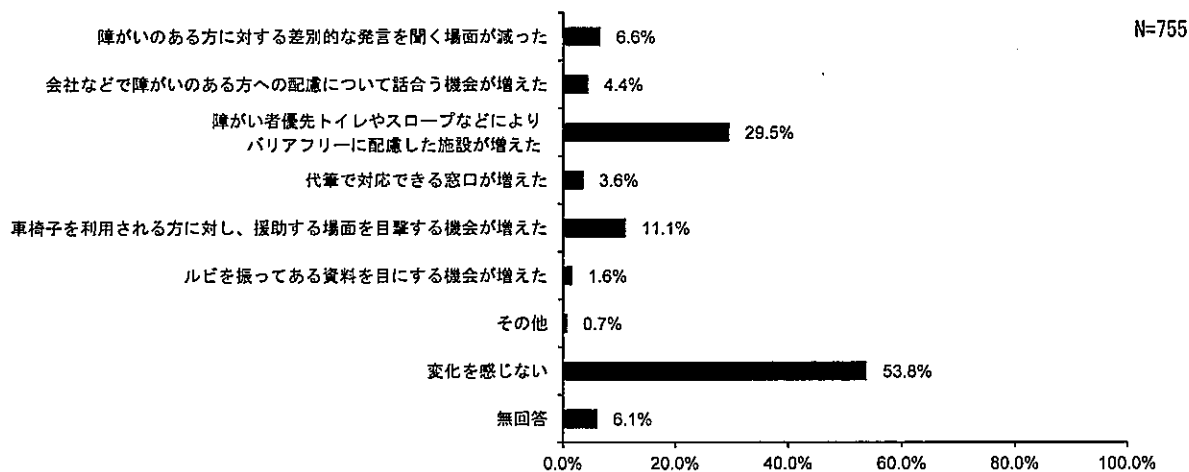
「名前も内容も知らない」については、1年未満(69.2%)が最も割合が高く、次いで5～10年未満(68.5%)となっている。「名前知っているが、内容は知らない」については、20年以上(31.5%)が最も割合が高く、次いで1年未満(30.8%)となっている。

①名前は知っているが、内容は知らない ②名前も内容も知っている  
 ③名前も内容も知らない ④無回答

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

凡例	①	②	③	④	
全体 (N=755)	29.0	10.7	56.8	3.4	
圏域	道央広域連携地域	29.1	9.6	58.7	2.6
	道南連携地域	32.8	15.6	50.0	1.6
	道北連携地域	25.6	11.6	58.1	4.7
	オホーツク連携地域	19.4	12.9	67.7	
	十勝連携地域	36.4	9.1	54.5	
	釧路・根室連携地域	28.6	14.3	46.9	10.2
	無回答	28.6	7.1	35.7	28.6
人口規模	札幌市	25.9	9.5	62.0	2.7
	人口10万人以上の市	31.1	12.2	54.1	2.6
	人口10万人未満の市	28.6	7.8	60.4	3.2
	町村部	32.3	15.0	48.8	3.9
	無回答	33.3	6.7	33.3	26.7
性別	男性	29.6	12.2	56.1	2.1
	女性	28.4	9.6	58.1	3.9
	無回答	33.3	8.3	33.3	25.0
年代	18～29歳	27.7	4.8	66.3	1.2
	30～39歳	22.6	8.3	62.4	6.3
	40～49歳	24.0	13.0	62.0	1.0
	50～59歳	29.2	11.1	57.6	2.1
	60～69歳	38.3	12.1	46.8	2.8
	70歳以上	47.1	14.7	26.5	11.8
	無回答	33.3	8.3	33.3	25.0
職種	自営業（農林漁業）	25.0		75.0	
	自営業（商工サービス業）	28.9	13.2	55.3	2.6
	自由業	33.3	16.7	50.0	
	事務職系	31.1	15.1	50.9	2.8
	労務職系	25.5	9.4	61.7	3.4
	主婦	24.8	6.5	65.4	3.3
	学生	17.6	11.8	70.6	
	無職	48.5	6.1	45.5	
	その他	24.7	13.0	57.1	3.2
	無回答	23.1	7.7	30.8	38.3
居住年数	1年未満	30.3		69.2	
	1～5年未満	29.5	9.1	61.4	
	5～10年未満	14.8	13.0	68.5	3.7
	10～20年未満	23.6	11.3	63.2	1.9
	20年以上	31.5	10.8	54.1	3.6
	無回答	27.3	9.1	36.4	27.3

問 26 障害者差別解消法が施行されて、あなたの生活や仕事に何か変化を感じますか。  
次の中からいくつでもお選びください。



#### 【全体】

「変化を感じない」(58.3%)と答えた人の割合が最も高く、次いで「障がい者優先トイレやスロープなどによりバリアフリーに配慮した施設が増えた」(29.5%)、「車椅子を利用される方に対し、援助する場面を目撃する機会が増えた」(11.1%)の順となっている。

#### 【圏域別】

「変化を感じない」については、オホーツク連携地域(74.2%)が最も割合が高く、次いで十勝連携地域(56.8%)となっている。「障がい者優先トイレやスロープなどによりバリアフリーに配慮した施設が増えた」については、釧路・根室連携地域(42.9%)が最も割合が高く、次いで道南連携地域(40.6%)となっている。

#### 【人口規模別】

「変化を感じない」については、札幌市(58.2%)が最も割合が高く、次いで人口10万人未満の市(55.2%)となっている。「障がい者優先トイレやスロープなどによりバリアフリーに配慮した施設が増えた」については、人口10万人以上の市(35.7%)が最も割合が高く、次いで町村部(33.1%)となっている。

#### 【性別】

「変化を感じない」については、男性51.6%、女性55.9%となっており、「障がい者優先トイレやスロープなどによりバリアフリーに配慮した施設が増えた」については、男性30.4%、女性29.2%となっている。

#### 【年代別】

「変化を感じない」については、40～49歳(60.1%)が最も割合が高く、次いで18～29歳(59.0%)となっている。「障がい者優先トイレやスロープなどによりバリアフリーに配慮した施設が増えた」については、70歳以上(41.2%)が最も割合が高く、次いで60～69歳(34.8%)となっている。

#### 【職種別】

「変化を感じない」については、自由業(77.8%)が最も割合が高く、次いで学生(58.8%)となっている。「障がい者優先トイレやスロープなどによりバリアフリーに配慮した施設が増えた」については、自営業(農林漁業)(41.7%)が最も割合が高く、次いで自営業(商工サービス業)(36.8%)となっている。

#### 【居住年数別】

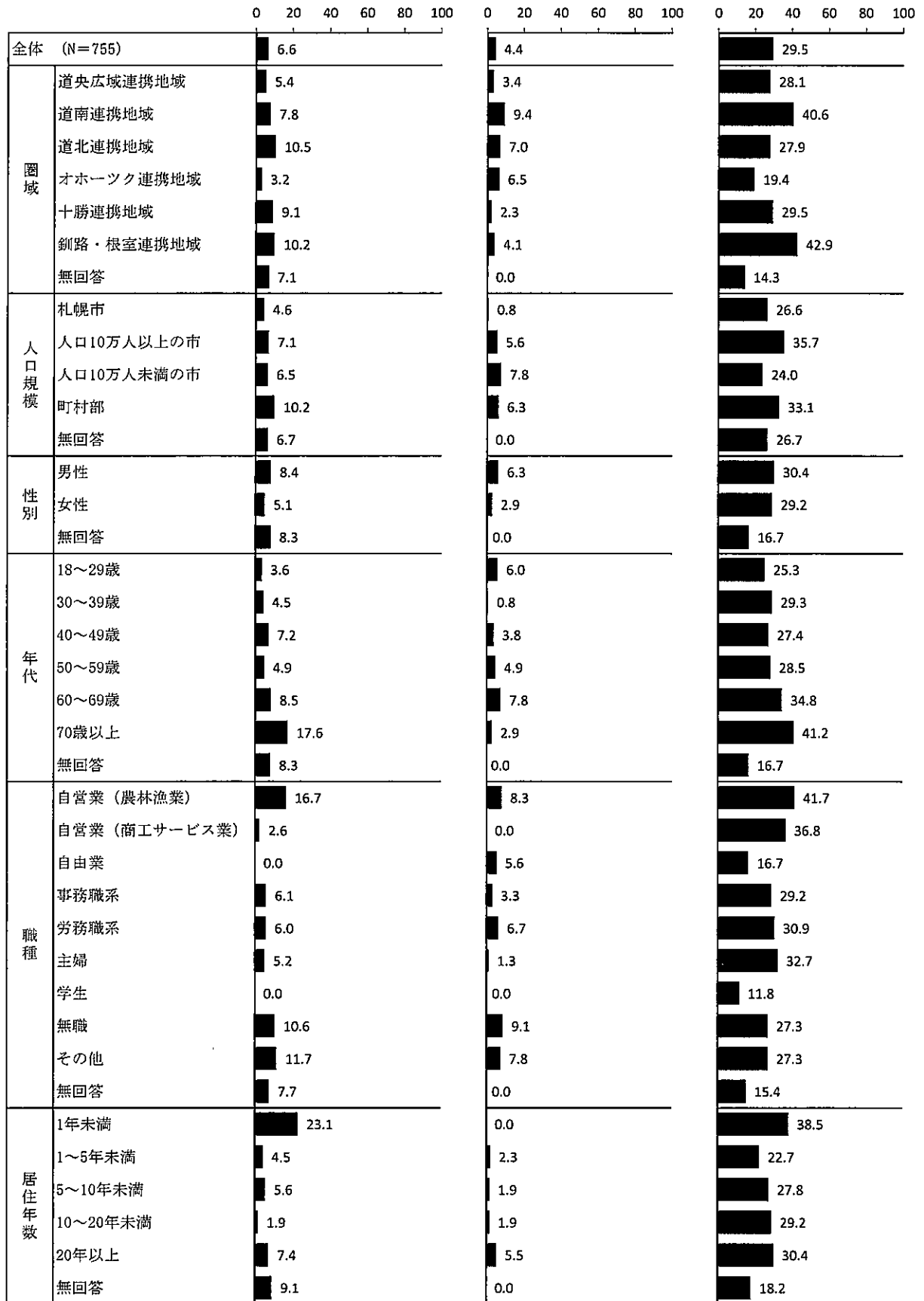
「変化を感じない」については、5～10年未満(63.0%)が最も割合が高く、次いで1年未満(61.5%)となっている。「障がい者優先トイレやスロープなどによりバリアフリーに配慮した施設が増えた」については、1年未満(38.5%)が最も割合が高く、次いで20年以上(30.4%)となっている。



障がいのある方に対する差別的な発言を聞く場面が減った

会社などで障がいのある方への配慮について話合う機会が増えた

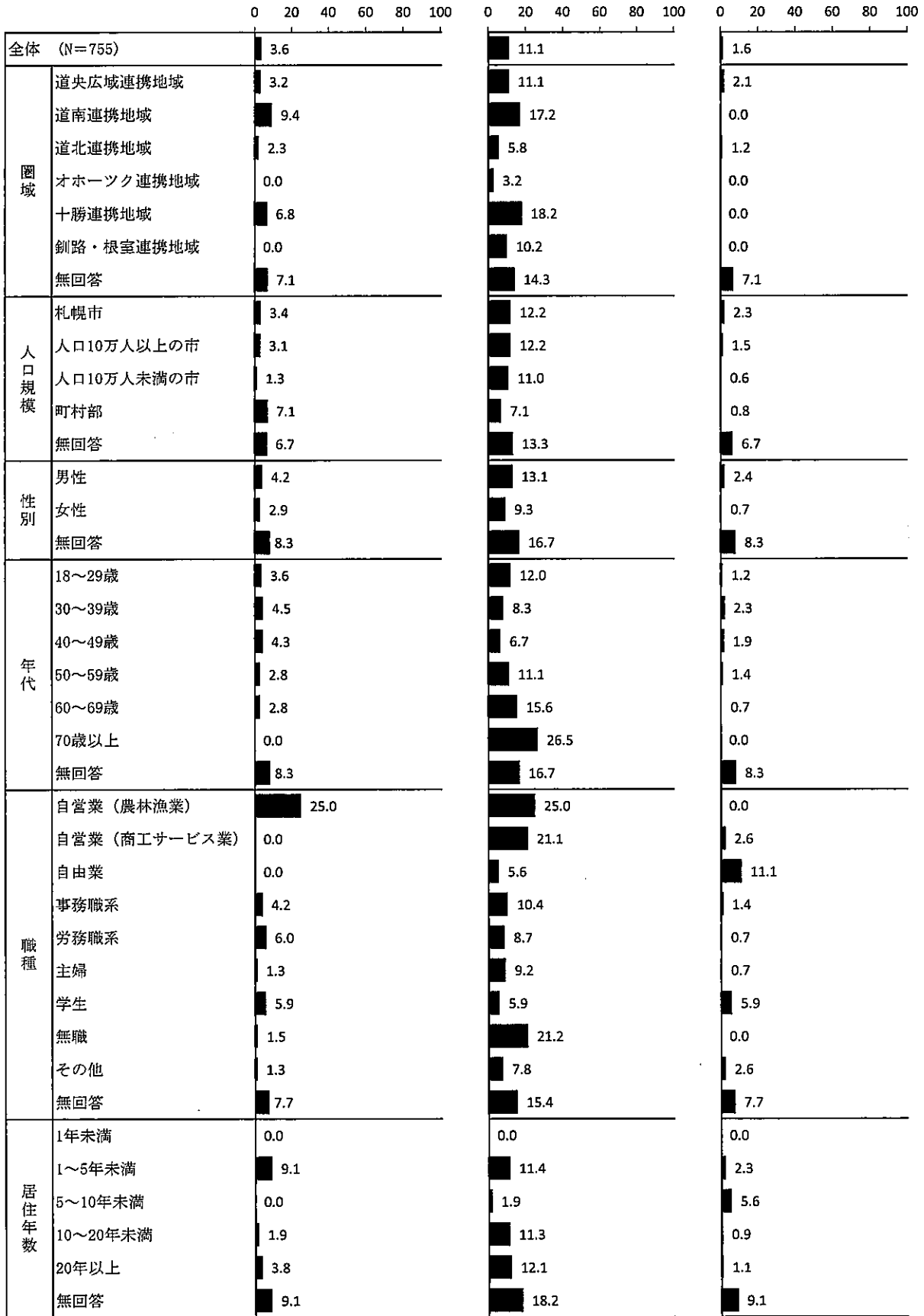
障がい者優先トイレやスロープなどによりバリアフリーに配慮した施設が増えた

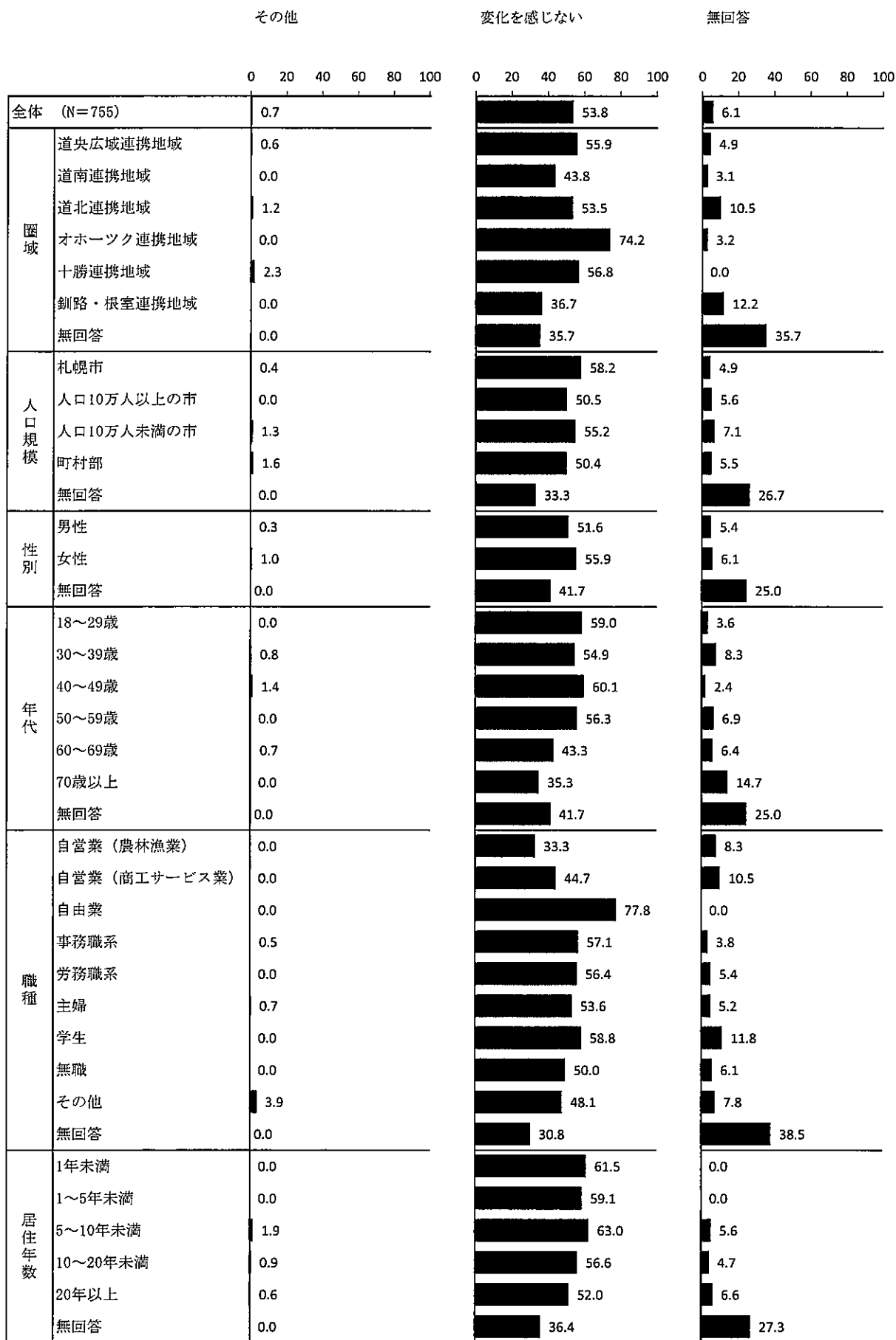


代筆で対応できる窓口が増えた

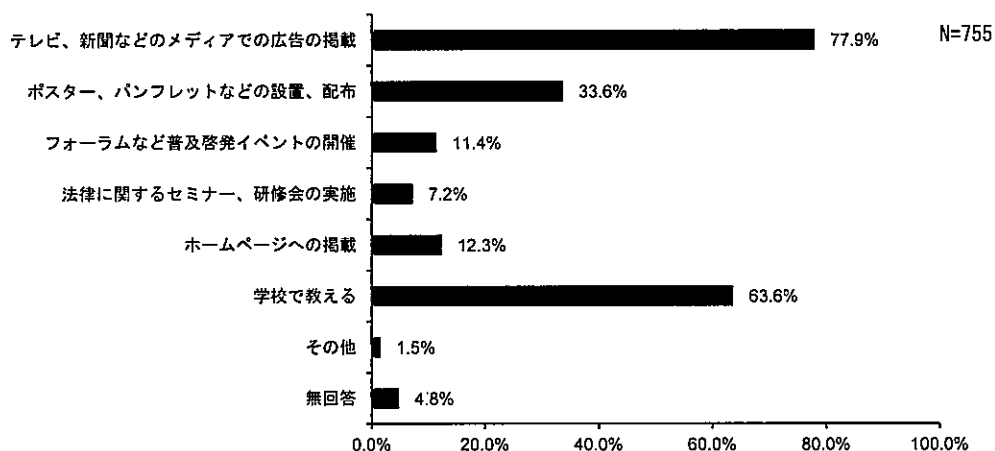
車椅子を利用される方に対し、  
援助する場面を目撃する機会が  
増えた

ルビを振ってある資料を目に  
する機会が増えた





問 27 今後、この法律をより多くの人に知ってもらうために、どのような取組があると良いと思いますか。次の中からいくつでもお選びください。



#### 【全体】

「テレビ、新聞などのメディアでの広告の掲載」(77.9%)と答えた人の割合が最も高く、次いで「学校で教える」(63.6%)、「ポスター、パンフレットなどの設置、配布」(33.6%)の順となっている。

#### 【圏域別】

「テレビ、新聞などのメディアでの広告の掲載」については、オホーツク連携地域(87.1%)が最も割合が高く、次いで十勝連携地域(81.8%)となっている。「学校で教える」については、オホーツク連携地域(74.2%)が最も割合が高く、次いで道北連携地域(66.3%)となっている。

#### 【人口規模別】

「テレビ、新聞などのメディアでの広告の掲載」については、札幌市(79.5%)が最も割合が高く、次いで町村部(78.0%)となっている。「学校で教える」については、札幌市(65.0%)が最も割合が高く、次いで町村部(63.8%)となっている。

#### 【性別】

「テレビ、新聞などのメディアでの広告の掲載」については、男性77.3%、女性78.4%となっており、「学校で教える」については、男性61.2%、女性65.7%となっている。

#### 【年代別】

「テレビ、新聞などのメディアでの広告の掲載」については、40～49歳(82.7%)が最も割合が高く、次いで60～69歳(80.1%)となっている。「学校で教える」については、40～49歳(66.8%)が最も割合が高く、次いで30～39歳(66.2%)となっている。

#### 【職種別】

「テレビ、新聞などのメディアでの広告の掲載」については、自営業(商工サービス業)(84.2%)が最も割合が高く、次いで主婦(81.7%)となっている。「学校で教える」については、学生(76.5%)が最も割合が高く、次いで自営業(農林漁業)(75.0%)となっている。

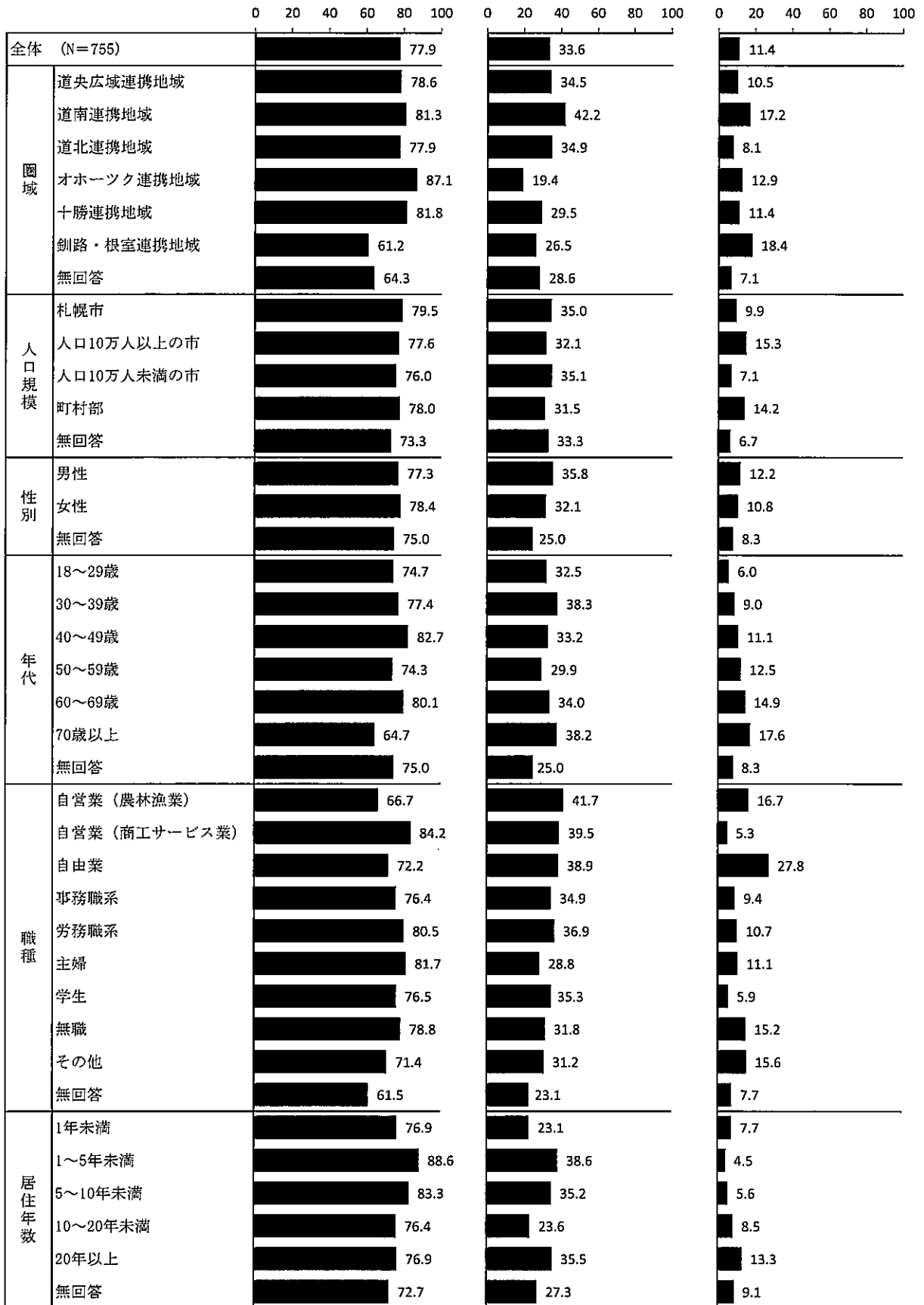
#### 【居住年数別】

「テレビ、新聞などのメディアでの広告の掲載」については、1～5年未満(88.6%)が最も割合が高く、次いで5～10年未満(83.3%)となっている。「学校で教える」については、10～20年未満(67.0%)が最も割合が高く、次いで5～10年未満(64.8%)となっている。

テレビ、新聞などのメディアでの広告の掲載

ポスター、パンフレットなどの設置、配布

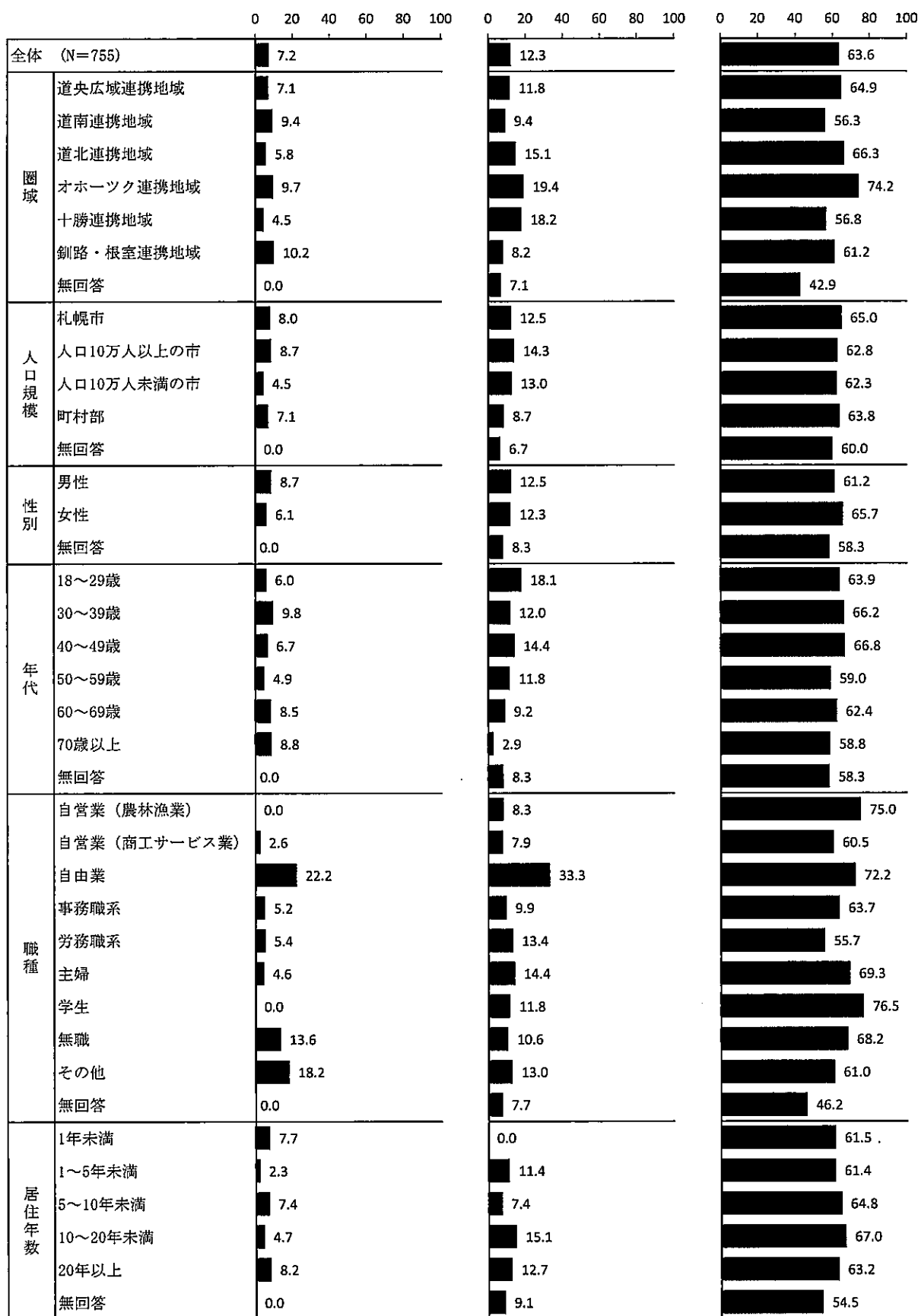
フォーラムなど普及啓発イベントの開催



法律に関するセミナー、研修会の実施

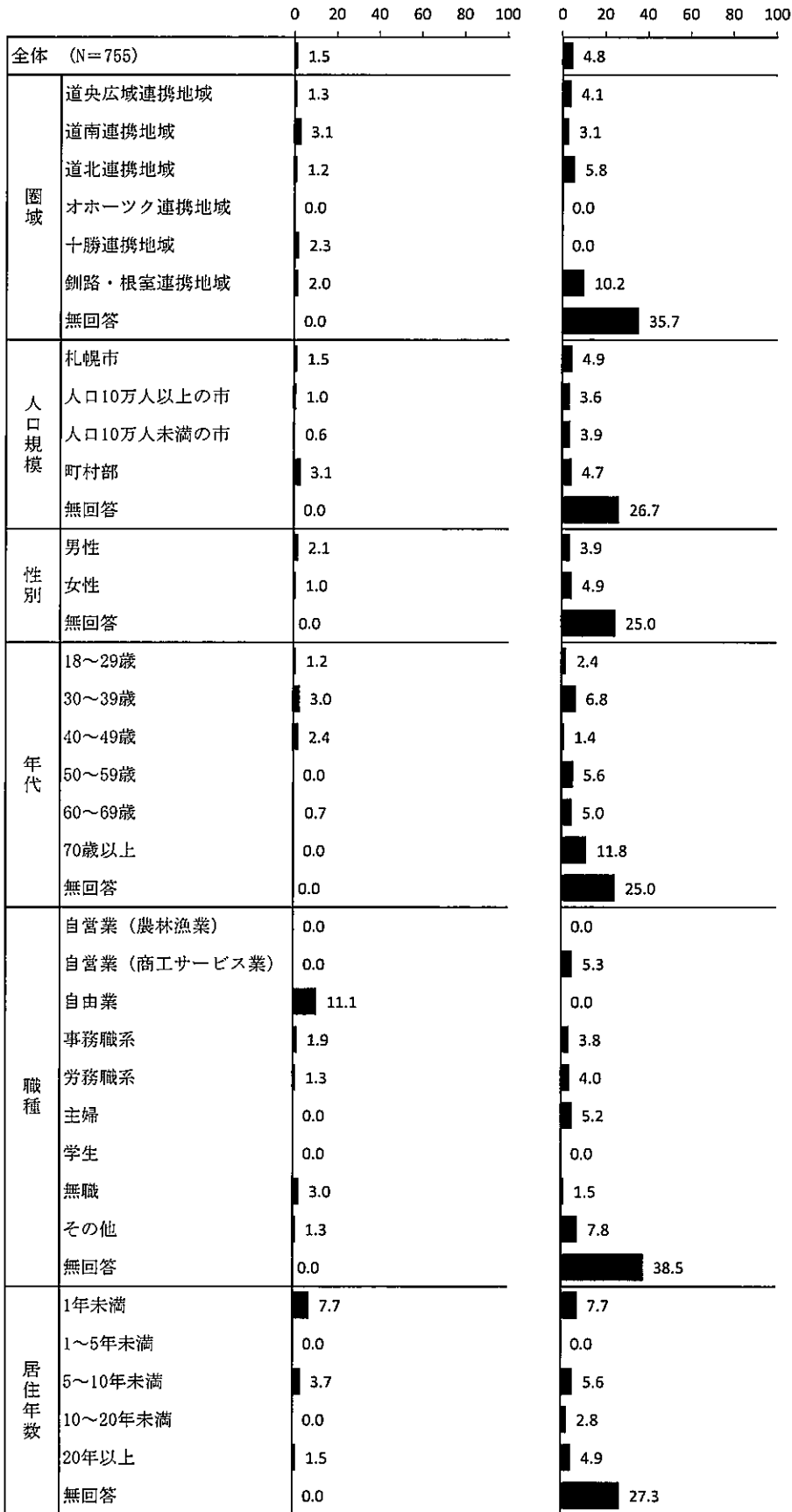
ホームページへの掲載

学校で教える



その他

無回答



## ■「障がい者の差別の解消の推進について」の調査を終えて

---

障がい者に対する差別の見聞き（経験）については、3割近くの方が今もなお差別を見聞き（経験）していると回答された。

そうした中、平成28年4月1日に施行された障がい者の差別の解消を推進する法律である障害者差別解消法（以下、「法」という。）の認知度については、半数以上の方が「名前も内容も知らない」、3割近くの方が「名前は知っているが内容は知らない」と回答され、施行後1年以上が経過したが認知度はまだ低いと言える。

法の施行後の変化については、5割以上の方が「変化を感じない」と回答され、また、変化を感じた内容については、障がい者に配慮した施設の増加といったハード面での整備に関する変化と回答された方が3割近くを占めている。

法の周知に有効な取組については、「テレビ、新聞などのメディアでの広告の掲載」（77.9%）が最も多く、次いで「学校で教える」（63.6%）となっている。

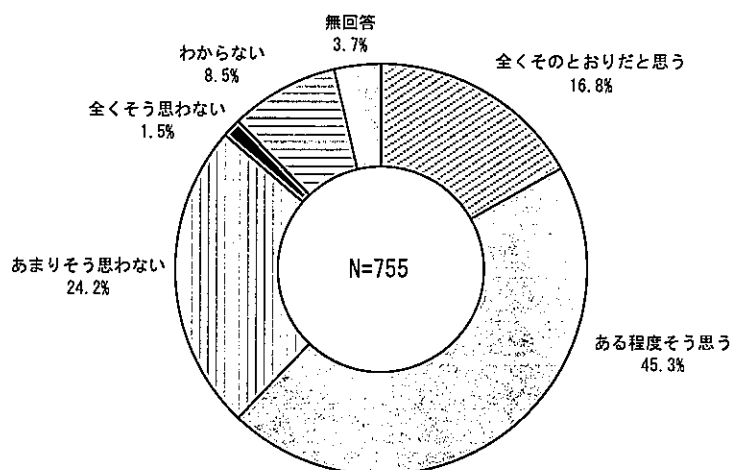
今後は、今回の調査結果を参考に、法の理解の促進など、障がい者の差別の解消に取り組んでいく。

（保健福祉部福祉局障がい者保健福祉課）



## 6 家庭及び地域の教育力について

問 28 あなたは、家庭の教育力が低下していると思いますか。  
次の中から1つだけお選びください。



### 【全体】

「ある程度そう思う」(45.3%)と答えた人の割合が最も高く、次いで「あまりそう思わない」(24.2%)、「全くそのとおりだと思う」(16.8%)の順となっている。

### 【圏域別】

「ある程度そう思う」については、道北連携地域(53.5%)が最も割合が高く、次いで十勝連携地域(47.7%)となっている。「あまりそう思わない」については、道南連携地域(26.6%)が最も割合が高く、次いでオホーツク連携地域(25.8%)となっている。

### 【人口規模別】

「ある程度そう思う」については、人口10万人以上の市(50.5%)が最も割合が高く、次いで札幌市(45.6%)となっている。「あまりそう思わない」については、札幌市(25.9%)が最も割合が高く、次いで町村部(24.4%)となっている。

### 【性別】

「ある程度そう思う」については、男性45.7%、女性44.4%となっており、「あまりそう思わない」については、男性25.1%、女性24.3%となっている。

### 【年代別】

「ある程度そう思う」については、70歳以上(50.0%)が最も割合が高く、次いで30~39歳(45.9%)となっている。「あまりそう思わない」については、30~39歳(28.6%)が最も割合が高く、次いで60~69歳(27.0%)となっている。

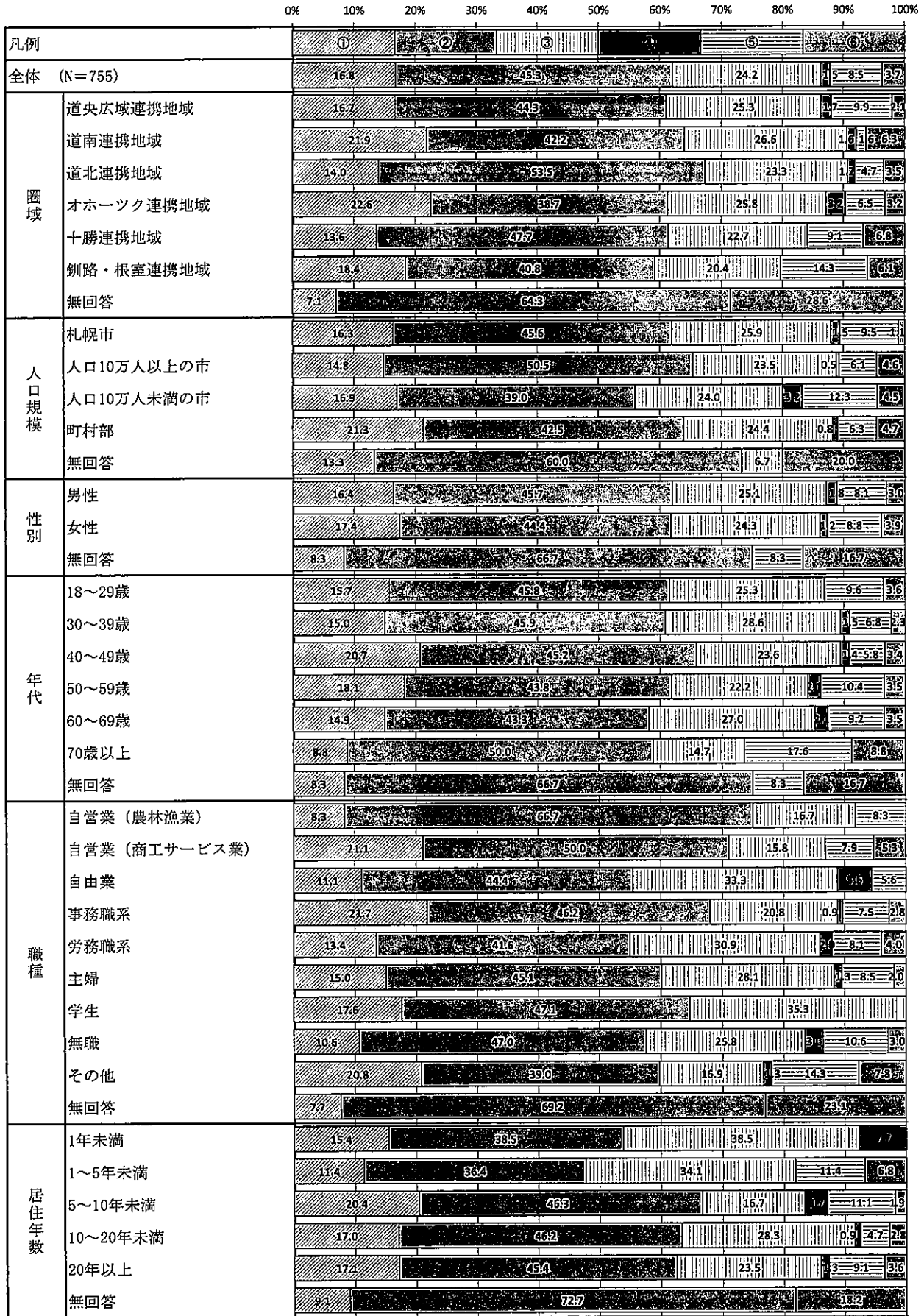
### 【職種別】

「ある程度そう思う」については、自営業(農林漁業)(66.7%)が最も割合が高く、次いで自営業(商工サービス業)(50.0%)となっている。「あまりそう思わない」については、学生(35.3%)が最も割合が高く、次いで自由業(33.3%)となっている。

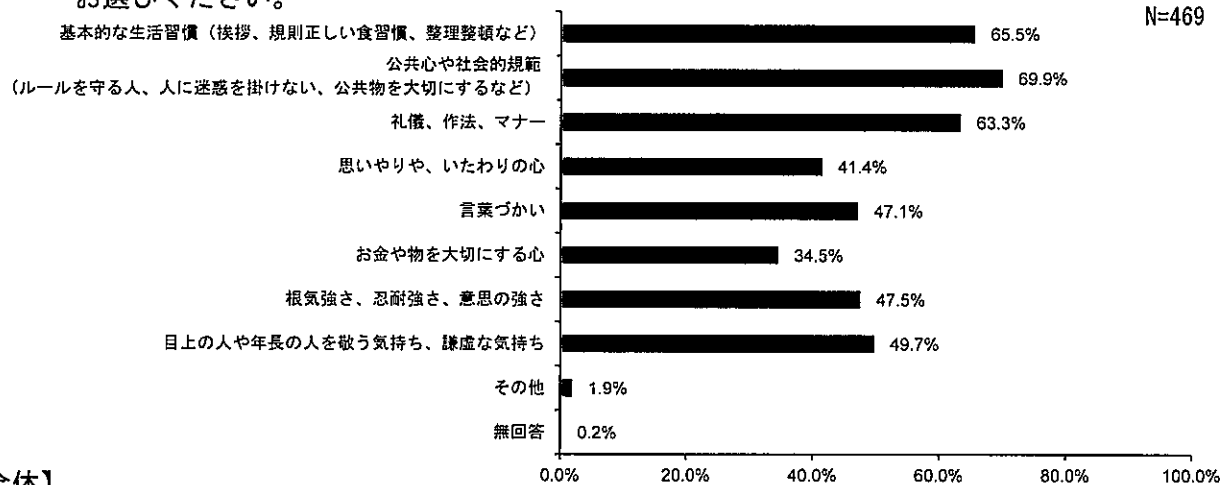
### 【居住年数別】

「ある程度そう思う」については、5~10年未満(46.3%)が最も割合が高く、次いで10~20年未満(46.2%)となっている。「あまりそう思わない」については、1年未満(38.5%)が最も割合が高く、次いで1~5年未満(34.1%)となっている。

①全くそのとおりだと思う ②ある程度そう思う ③あまりそう思わない  
 ④全くそう思わない ⑤わからない ⑥無回答



問 29 ※問 28 で選択肢「全くそのとおりだと思う」または「ある程度そう思う」を選んだ方のみお答えください。あなたが、低下していると思う家庭の教育力を、次の中からいくつでもお選びください。



**【全体】**

「公共心や社会的規範 (ルールを守る人、人に迷惑を掛けない、公共物を大切にすることなど)」(69.9%)と答えた人の割合が最も高く、次いで「基本的な生活習慣 (挨拶、規則正しい食習慣、整理整頓など)」(65.5%)、「礼儀、作法、マナー」(63.3%)の順となっている。

**【圏域別】**

「公共心や社会的規範 (ルールを守る人、人に迷惑を掛けない、公共物を大切にすることなど)」については、道北連携地域 (84.7%) が最も割合が高く、次いでオホーツク連携地域 (73.7%) となっている。「基本的な生活習慣 (挨拶、規則正しい食習慣、整理整頓など)」については、釧路・根室連携地域 (75.9%) が最も割合が高く、次いで道南連携地域 (70.7%) となっている。

**【人口規模別】**

「公共心や社会的規範 (ルールを守る人、人に迷惑を掛けない、公共物を大切にすることなど)」については、人口 10 万人以上の市 (73.6%) が最も割合が高く、次いで町村部 (69.6%) となっている。「基本的な生活習慣 (挨拶、規則正しい食習慣、整理整頓など)」については、町村部 (70.9%) が最も割合が高く、次いで人口 10 万人以上の市 (65.1%) と人口 10 万人未満の市 (65.1%) となっている。

**【性別】**

「公共心や社会的規範 (ルールを守る人、人に迷惑を掛けない、公共物を大切にすることなど)」については、男性 74.6%、女性 66.3% となっており、「基本的な生活習慣 (挨拶、規則正しい食習慣、整理整頓など)」については、男性 68.3%、女性 63.9% となっている。

**【年代別】**

「公共心や社会的規範 (ルールを守る人、人に迷惑を掛けない、公共物を大切にすることなど)」については、18~29 歳 (76.5%) が最も割合が高く、次いで 50~59 歳 (72.2%) となっている。「基本的な生活習慣 (挨拶、規則正しい食習慣、整理整頓など)」については、70 歳以上 (80.0%) が最も割合が高く、次いで 50~59 歳 (72.2%) となっている。

**【職種別】**

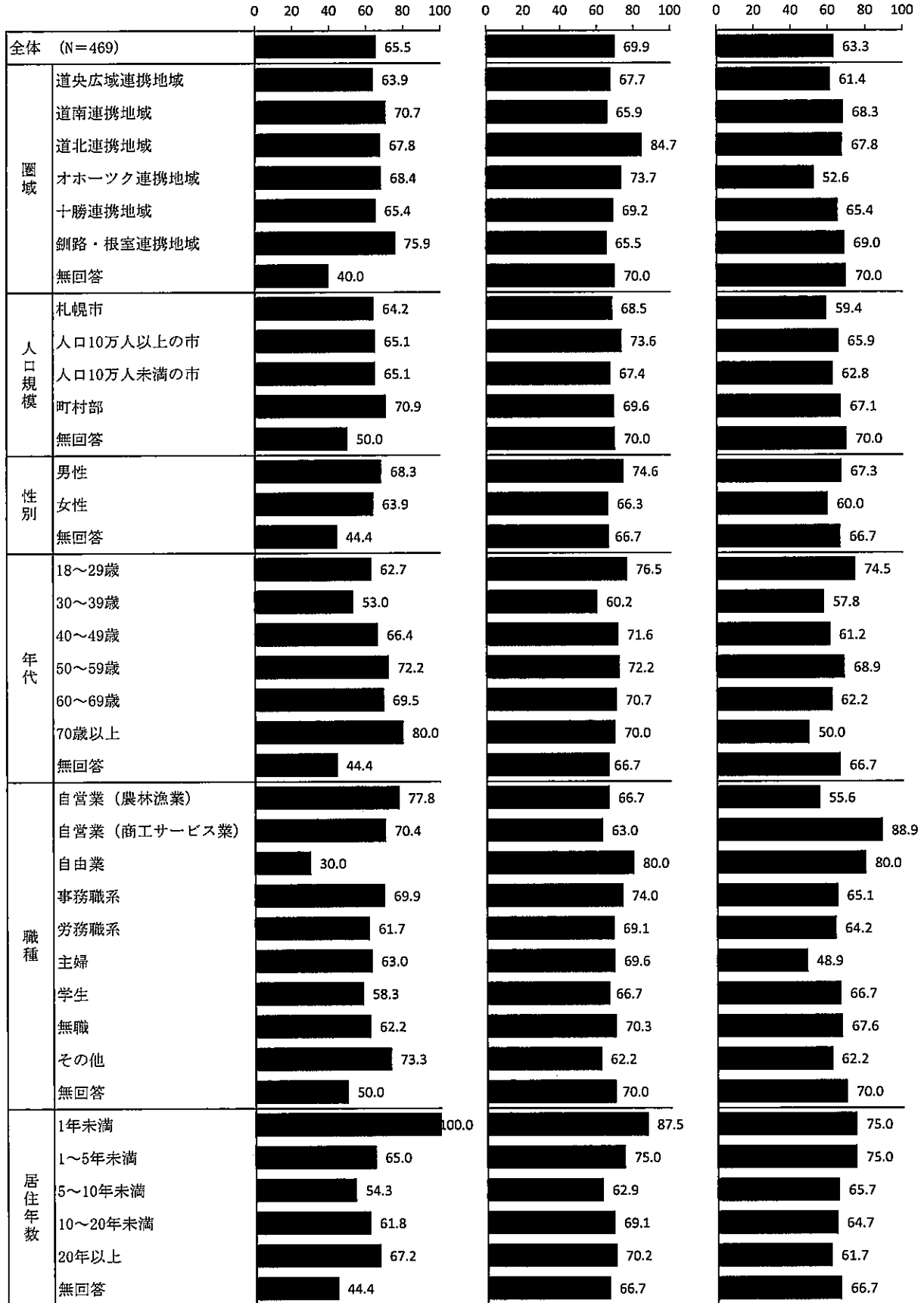
「公共心や社会的規範 (ルールを守る人、人に迷惑を掛けない、公共物を大切にすることなど)」については、自由業 (80.0%) が最も割合が高く、次いで事務職系 (74.0%) となっている。「基本的な生活習慣 (挨拶、規則正しい食習慣、整理整頓など)」については、自営業 (農林漁業) (77.8%) が最も割合が高く、次いでその他 (73.3%) となっている。

**【居住年数別】**

「公共心や社会的規範 (ルールを守る人、人に迷惑を掛けない、公共物を大切にすることなど)」については、1 年未満 (87.5%) が最も割合が高く、次いで 1~5 年未満 (75.0%) となっている。「基本的な生活習慣 (挨拶、規則正しい食習慣、整理整頓など)」については、1 年未満 (100.0%) が最も割合が高く、次いで 20 年以上 (67.2%) となっている。

基本的な生活習慣（挨拶、規則正しい食習慣、整理整頓など）

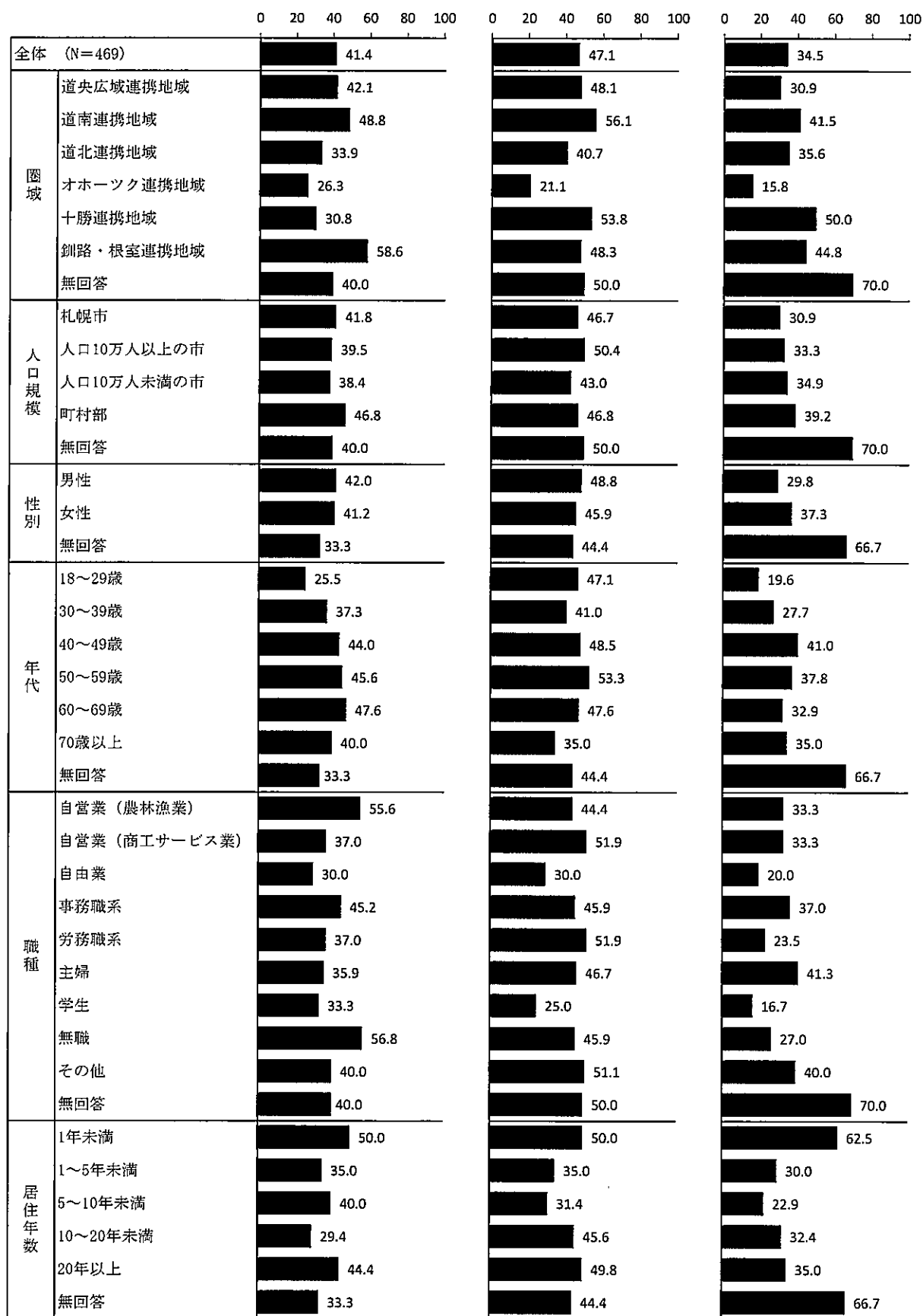
公共心や社会的規範（ルールを守る人、人に迷惑を掛けない、公共物を大切にするなど）



思いやりや、いたわりの心

言葉づかい

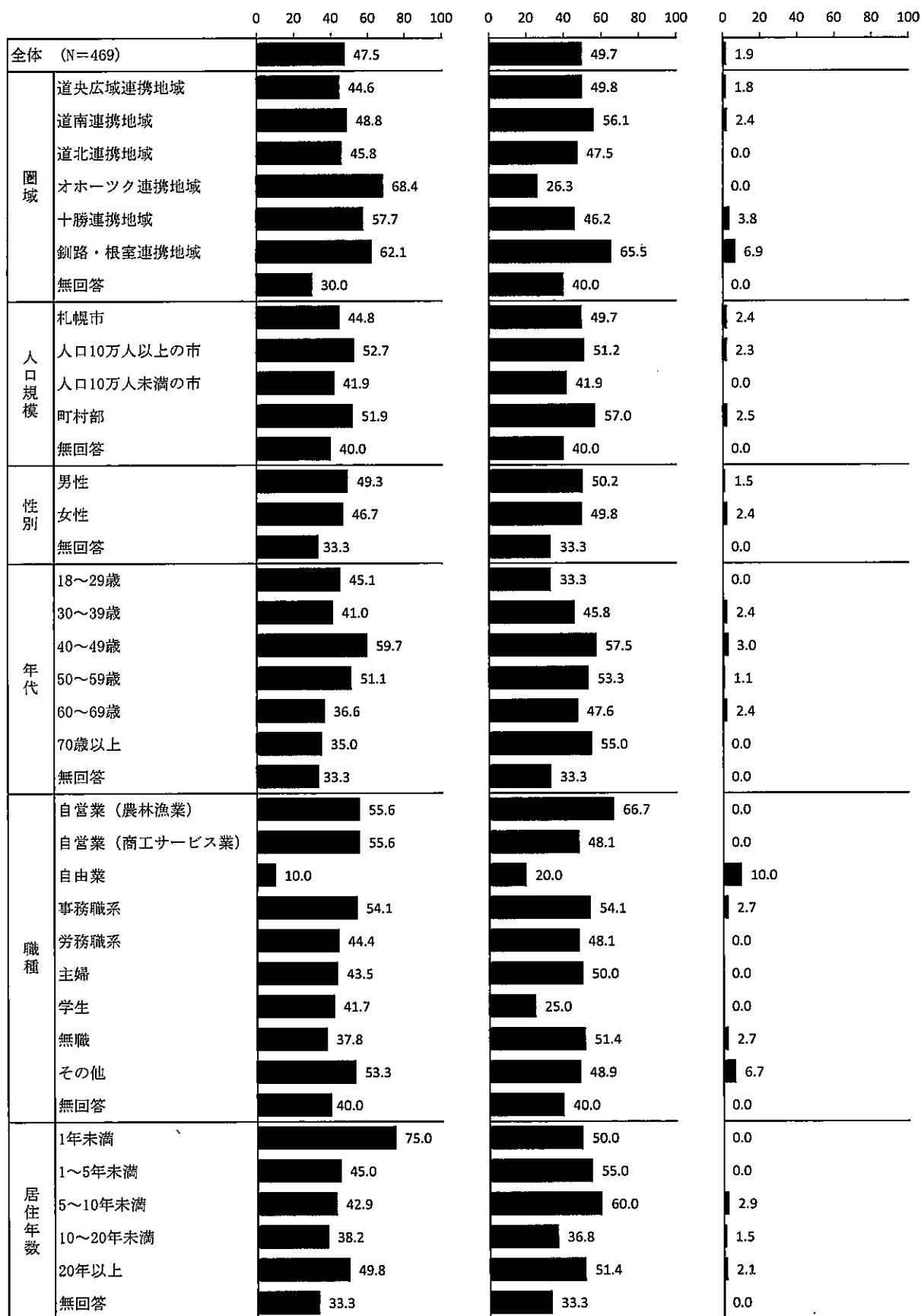
お金や物を大切にすること



根気強さ、忍耐強さ、意思の強さ

目上の人や年長の人を敬う気持ち、謙虚な気持ち

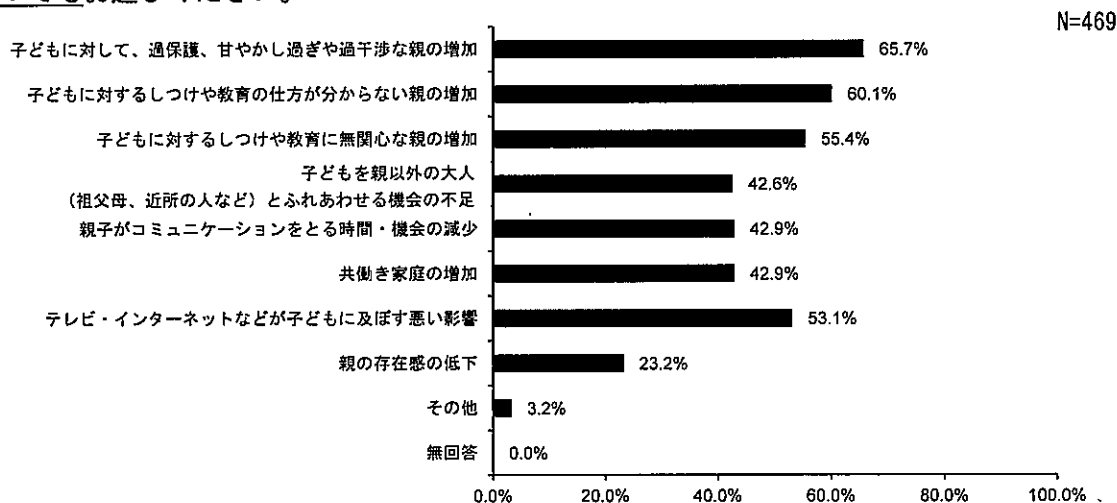
その他



無回答

		0	20	40	60	80	100
全体 (N=469)		0.2					
圏域	道央広域連携地域	0.0					
	道南連携地域	2.4					
	道北連携地域	0.0					
	オホーツク連携地域	0.0					
	十勝連携地域	0.0					
	釧路・根室連携地域	0.0					
	無回答	0.0					
人口規模	札幌市	0.0					
	人口10万人以上の市	0.8					
	人口10万人未満の市	0.0					
	町村部	0.0					
	無回答	0.0					
性別	男性	0.0					
	女性	0.4					
	無回答	0.0					
年代	18～29歳	0.0					
	30～39歳	0.0					
	40～49歳	0.0					
	50～59歳	0.0					
	60～69歳	1.2					
	70歳以上	0.0					
	無回答	0.0					
職種	自営業（農林漁業）	0.0					
	自営業（商工サービス業）	0.0					
	自由業	0.0					
	事務職系	0.0					
	労務職系	1.2					
	主婦	0.0					
	学生	0.0					
	無職	0.0					
	その他	0.0					
	無回答	0.0					
居住年数	1年未満	0.0					
	1～5年未満	0.0					
	5～10年未満	0.0					
	10～20年未満	0.0					
	20年以上	0.3					
	無回答	0.0					

問 30 ※問 28 で選択肢「全くそのとおりだと思う」または「ある程度そう思う」を選んだ方のみお答えください。あなたが、家庭の教育力が低下していると思う原因を、次の中からいくつかでもお選びください。



**【全体】**

「子どもに対して、過保護、甘やかし過ぎや過干渉な親の増加」（65.7%）と答えた人の割合が最も高く、次いで「子どもに対するしつけや教育の仕方が分からない親の増加」（60.1%）、「子どもに対するしつけや教育に無関心な親の増加」（55.4%）の順となっている。

**【圏域別】**

「子どもに対して、過保護、甘やかし過ぎや過干渉な親の増加」については、オホーツク連携地域（89.5%）が最も割合が高く、次いで釧路・根室連携地域（75.9%）となっている。「子どもに対するしつけや教育の仕方が分からない親の増加」については、道南連携地域（78.0%）が最も割合が高く、次いでオホーツク連携地域（73.7%）となっている。

**【人口規模別】**

「子どもに対して、過保護、甘やかし過ぎや過干渉な親の増加」については、人口 10 万人未満の市（72.1%）が最も割合が高く、次いで町村部（68.4%）となっている。「子どもに対するしつけや教育の仕方が分からない親の増加」については、町村部（70.9%）が最も割合が高く、次いで人口 10 万人未満の市（65.1%）となっている。

**【性別】**

「子どもに対して、過保護、甘やかし過ぎや過干渉な親の増加」については、男性 63.9%、女性 67.1% となっており、「子どもに対するしつけや教育の仕方が分からない親の増加」については、男性 66.8%、女性 56.1% となっている。

**【年代別】**

「子どもに対して、過保護、甘やかし過ぎや過干渉な親の増加」については、70 歳以上（75.0%）が最も割合が高く、次いで 50～59 歳（74.4%）となっている。「子どもに対するしつけや教育の仕方が分からない親の増加」については、50～59 歳（70.0%）が最も割合が高く、次いで 60～69 歳（65.9%）となっている。

**【職種別】**

「子どもに対して、過保護、甘やかし過ぎや過干渉な親の増加」については、その他（73.3%）が最も割合が高く、次いで自営業（商工サービス業）（70.4%）となっている。「子どもに対するしつけや教育の仕方が分からない親の増加」については、自営業（商工サービス業）（70.0%）が最も割合が高く、次いで事務職系（68.5%）となっている。

**【居住年数別】**

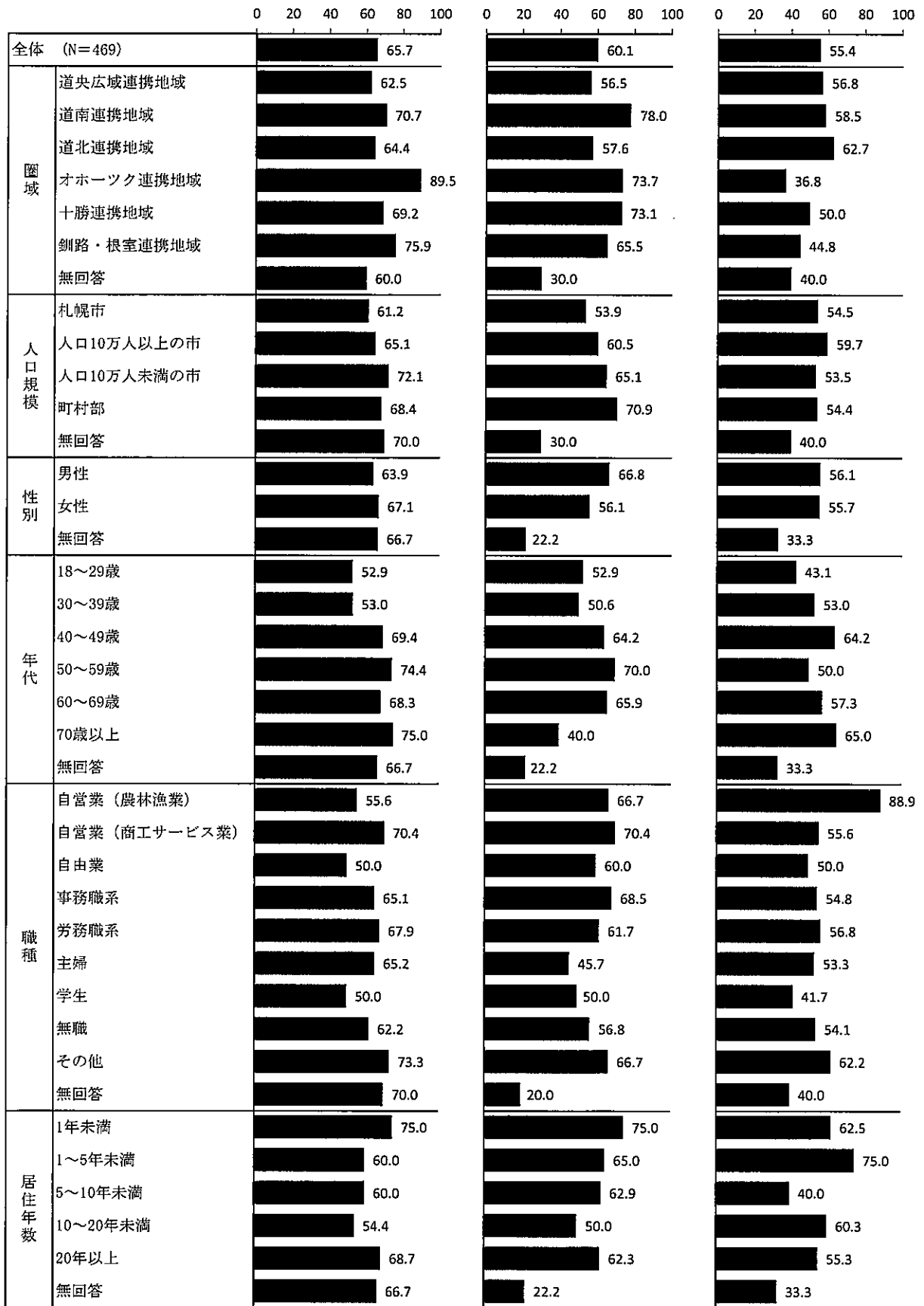
「子どもに対して、過保護、甘やかし過ぎや過干渉な親の増加」については、1 年未満（75.0%）が最も割合が高く、次いで 20 年以上（68.7%）となっている。「子どもに対するしつけや教育の仕方が分からない親の増加」については、1 年未満（75.0%）が最も割合が高く、次いで 1～5 年未満（65.0%）となっている。



子どもに対して、過保護、甘やかし過ぎや過干渉な親の増加

子どもに対するしつけや教育の仕方が分からない親の増加

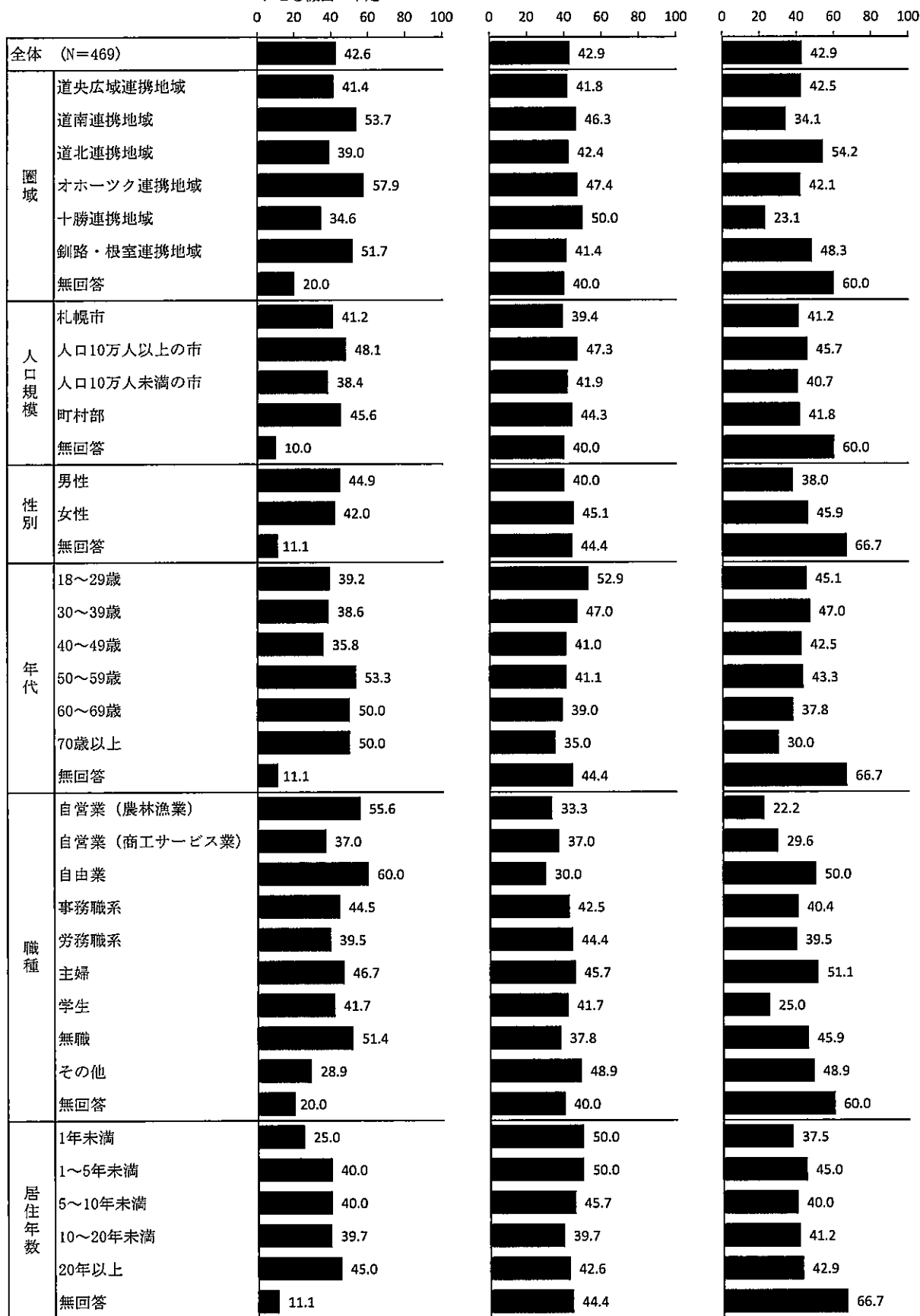
子どもに対するしつけや教育に無関心な親の増加



子どもを親以外の大人（祖母、近所の人など）とふれあわせる機会の不足

親子がコミュニケーションをとる時間・機会の減少

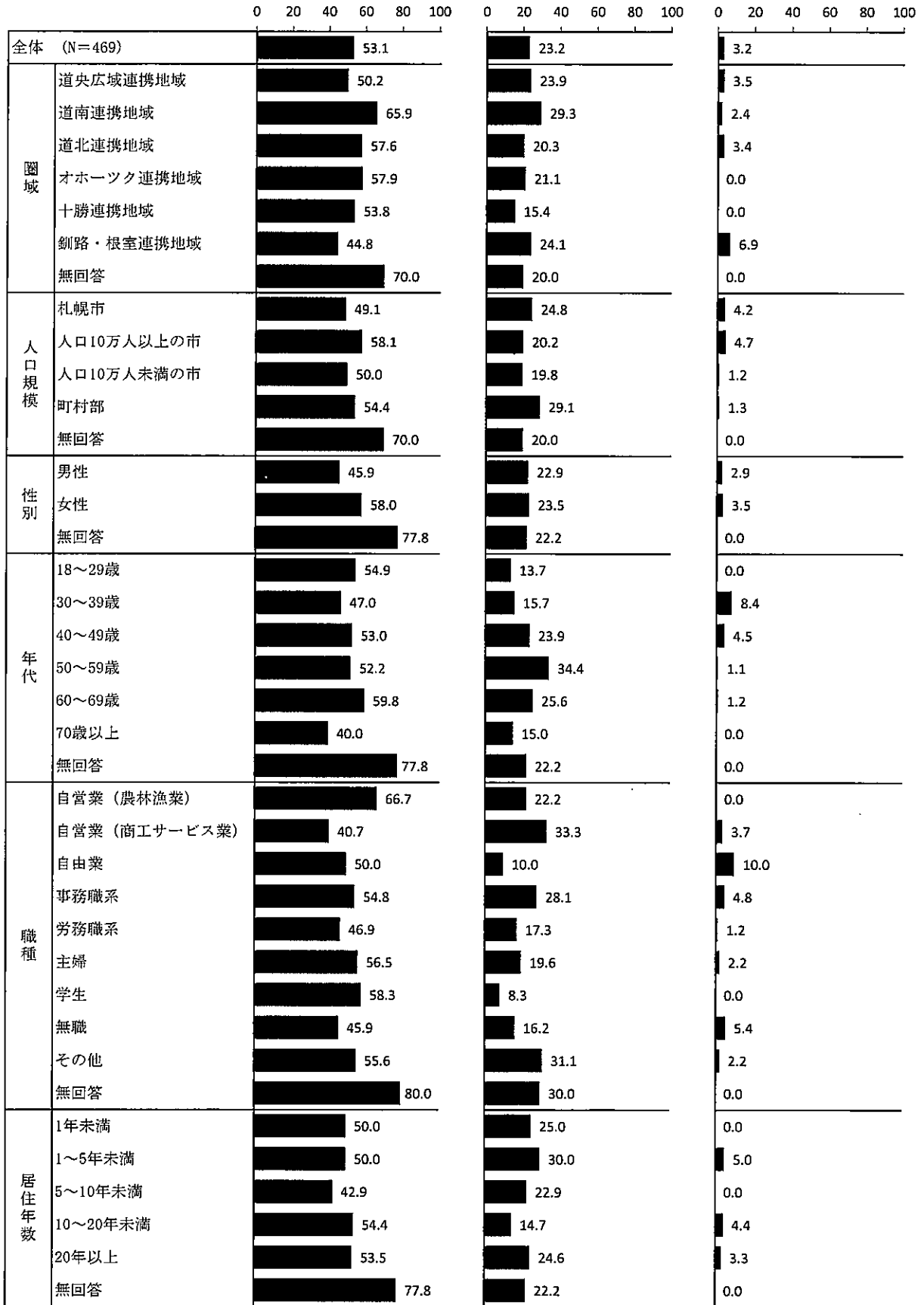
共働き家庭の増加



テレビ・インターネットなどが子どもに及ぼす悪い影響

親の存在感の低下

その他

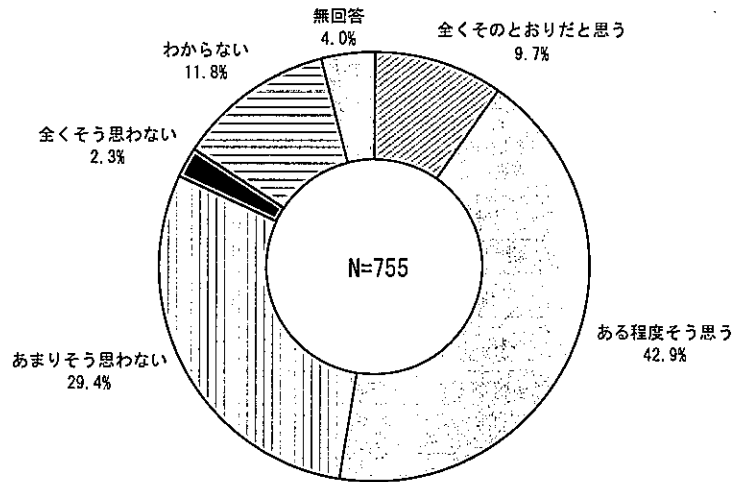


無回答

0 20 40 60 80 100

全体	(N=469)	0.0
圏域	道央広域連携地域	0.0
	道南連携地域	0.0
	道北連携地域	0.0
	オホーツク連携地域	0.0
	十勝連携地域	0.0
	釧路・根室連携地域	0.0
	無回答	0.0
人口規模	札幌市	0.0
	人口10万人以上の市	0.0
	人口10万人未満の市	0.0
	町村部	0.0
性別	男性	0.0
	女性	0.0
	無回答	0.0
年代	18～29歳	0.0
	30～39歳	0.0
	40～49歳	0.0
	50～59歳	0.0
	60～69歳	0.0
	70歳以上	0.0
	無回答	0.0
職種	自営業（農林漁業）	0.0
	自営業（商工サービス業）	0.0
	自由業	0.0
	事務職系	0.0
	労務職系	0.0
	主婦	0.0
	学生	0.0
	無職	0.0
	その他	0.0
	無回答	0.0
居住年数	1年未満	0.0
	1～5年未満	0.0
	5～10年未満	0.0
	10～20年未満	0.0
	20年以上	0.0
	無回答	0.0

問 31 あなたは、地域の教育力が低下していると思いますか。  
次の中から 1つだけお選びください。



**【全体】**

「ある程度そう思う」(42.9%)と答えた人の割合が最も高く、次いで「あまりそう思わない」(29.4%)、「わからない」(11.8%)の順となっている。

**【圏域別】**

「ある程度そう思う」については、オホーツク連携地域 (54.8%) が最も割合が高く、次いで道北連携地域 (48.8%) となっている。「あまりそう思わない」については、釧路・根室連携地域 (38.8%) が最も割合が高く、次いで十勝連携地域 (38.6%) となっている。

**【人口規模別】**

「ある程度そう思う」については、人口 10 万人以上の市 (47.4%) が最も割合が高く、次いで札幌市 (46.4%) となっている。「あまりそう思わない」については、町村部 (37.0%) が最も割合が高く、次いで人口 10 万人以上の市 (29.6%) となっている。

**【性別】**

「ある程度そう思う」については、男性 42.7%、女性 42.9% となっており、「あまりそう思わない」については、男性 30.1%、女性 29.2% となっている。

**【年代別】**

「ある程度そう思う」については、30～39 歳 (48.9%) が最も割合が高く、次いで 40～49 歳 (44.2%) となっている。「あまりそう思わない」については、18～29 歳 (31.3%) が最も割合が高く、次いで 50～59 歳 (30.6%) となっている。

**【職種別】**

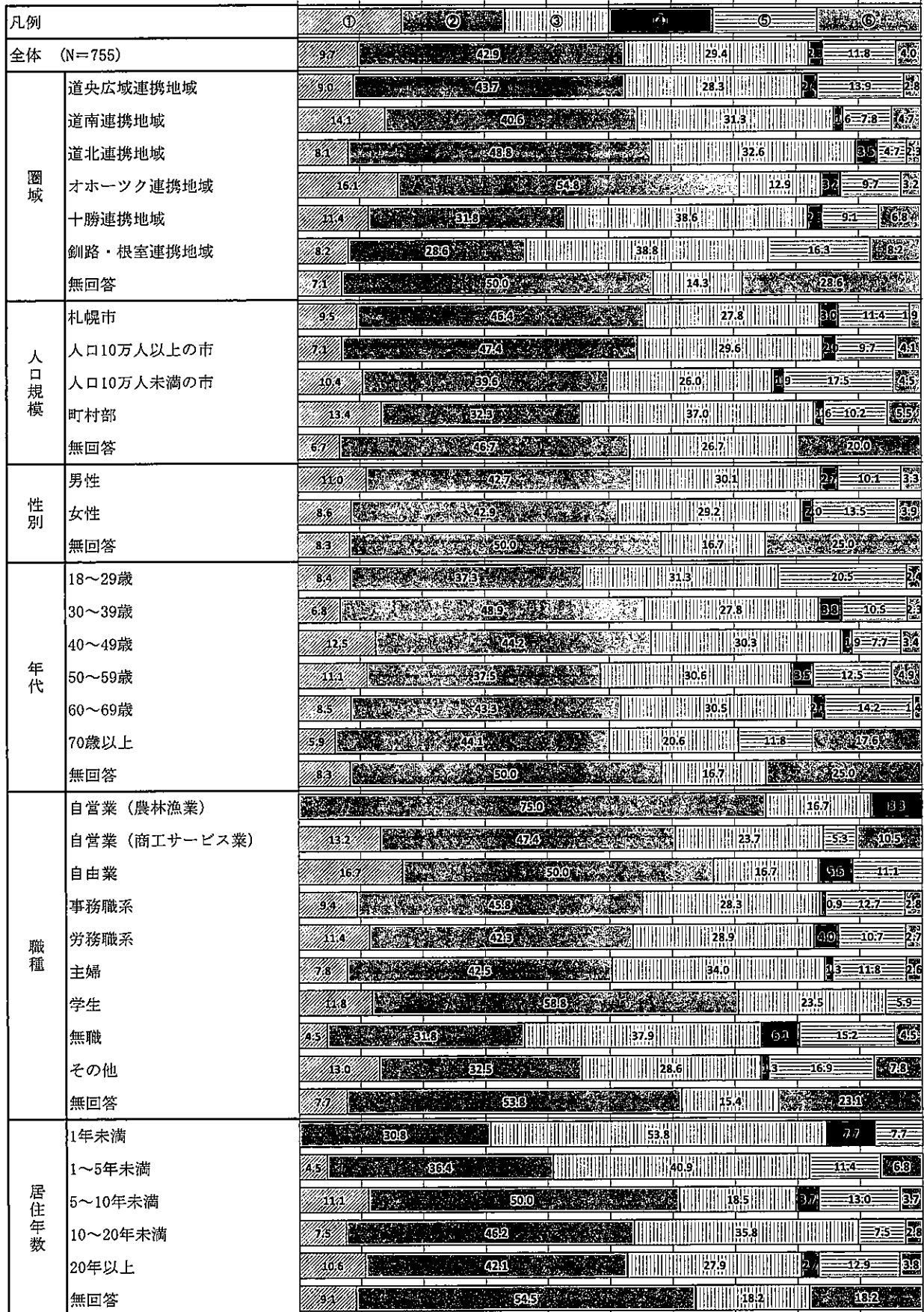
「ある程度そう思う」については、自営業(農林漁業) (75.0%) が最も割合が高く、次いで学生 (58.8%) となっている。「あまりそう思わない」については、無職 (37.9%) が最も割合が高く、次いで主婦 (34.0%) となっている。

**【居住年数別】**

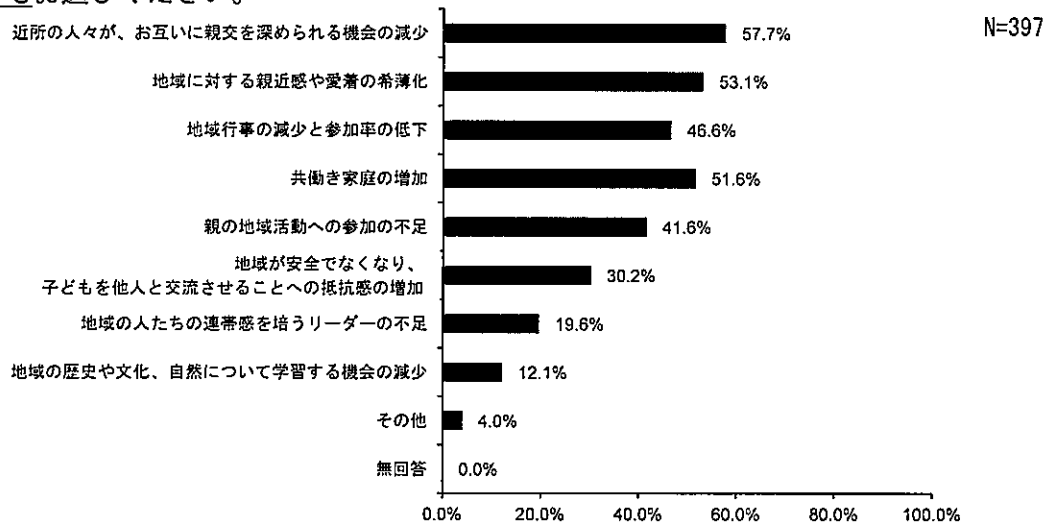
「ある程度そう思う」については、5～10 年未満 (50.0%) が最も割合が高く、次いで 10～20 年未満 (46.2%) となっている。「あまりそう思わない」については、1 年未満 (53.8%) が最も割合が高く、次いで 1～5 年未満 (40.9%) となっている。

①全くそのとおりだと思う ②ある程度そう思う ③あまりそう思わない  
 ④全くそう思わない ⑤わからない ⑥無回答

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



問 32 ※問 31 で選択肢「全くそのとおりだと思う」または「ある程度そう思う」を選んだ方のみお答えください。あなたが、地域の教育力が低下していると思う原因を、次の中からいくつかでもお選びください。



**【全体】**

「近所の人々が、お互いに親交を深められる機会の減少」(57.7%)と答えた人の割合が最も高く、次いで「地域に対する親近感や愛着の希薄化」(53.1%)、「共働き家庭の増加」(51.6%)の順となっている。

**【圏域別】**

「近所の人々が、お互いに親交を深められる機会の減少」については、十勝連携地域(68.4%)が最も割合が高く、次いで釧路・根室連携地域(66.7%)となっている。「地域に対する親近感や愛着の希薄化」については、道南連携地域(65.7%)が最も割合が高く、次いで釧路・根室連携地域(61.1%)となっている。

**【人口規模別】**

「近所の人々が、お互いに親交を深められる機会の減少」については、人口10万人以上の市(61.7%)が最も割合が高く、次いで人口10万人未満の市(59.7%)となっている。「地域に対する親近感や愛着の希薄化」については、町村部(62.1%)が最も割合が高く、次いで人口10万人以上の市(54.2%)となっている。

**【性別】**

「近所の人々が、お互いに親交を深められる機会の減少」については、男性58.9%、女性58.1%となっており、「地域に対する親近感や愛着の希薄化」については、男性56.7%、女性50.5%となっている。

**【年代別】**

「近所の人々が、お互いに親交を深められる機会の減少」については、60～69歳(68.5%)が最も割合が高く、次いで70歳以上(64.7%)となっている。「地域に対する親近感や愛着の希薄化」については、70歳以上(64.7%)が最も割合が高く、次いで60～69歳(63.0%)となっている。

**【職種別】**

「近所の人々が、お互いに親交を深められる機会の減少」については、自由業(66.7%)と学生(66.7%)と無職(66.7%)が最も割合が高く、次いで主婦(62.3%)となっている。「地域に対する親近感や愛着の希薄化」については、自営業(農林漁業)(88.9%)が最も割合が高く、次いで自由業(66.7%)となっている。

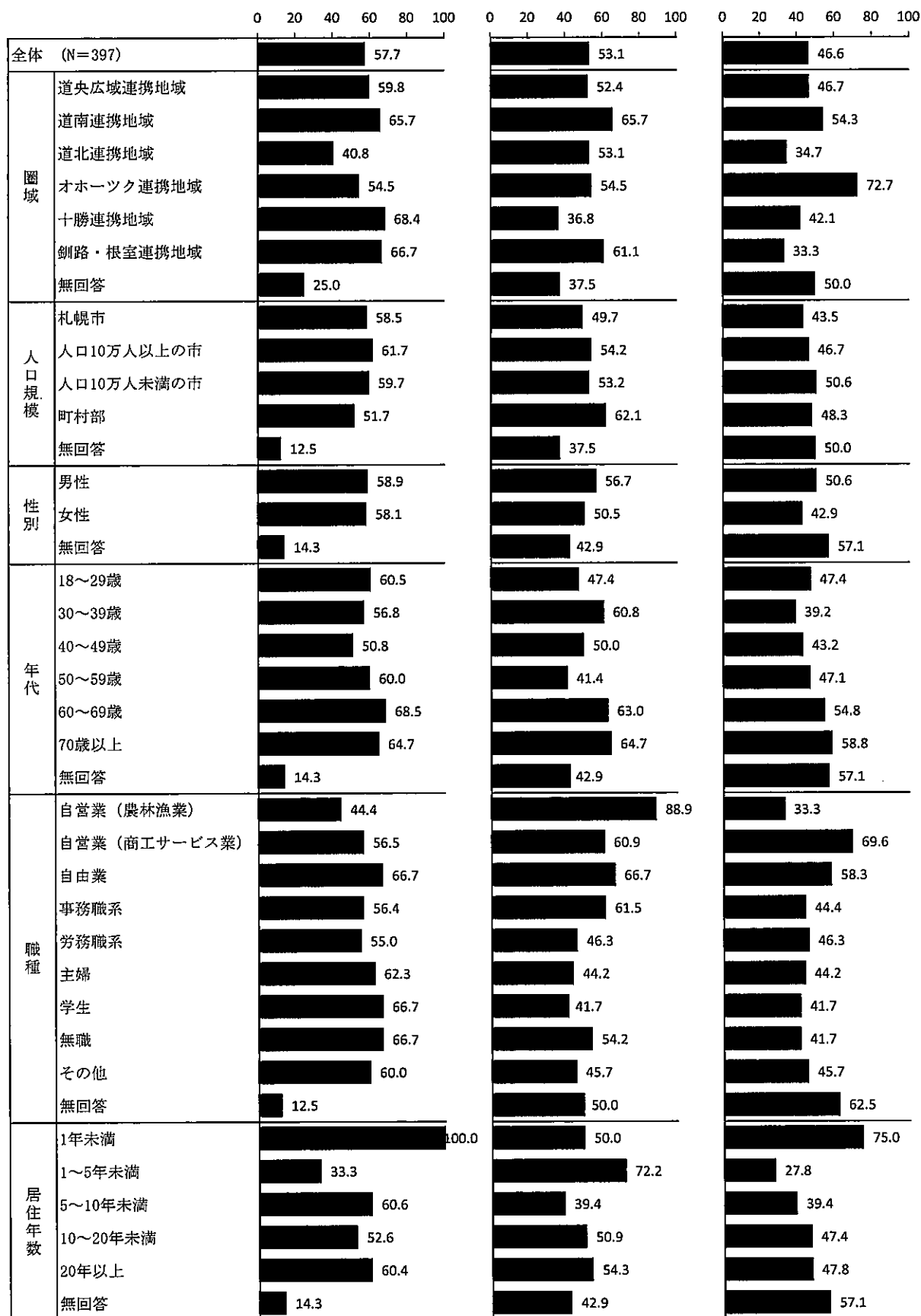
**【居住年数別】**

「近所の人々が、お互いに親交を深められる機会の減少」については、1年未満(100.0%)が最も割合が高く、次いで5～10年未満(60.6%)となっている。「地域に対する親近感や愛着の希薄化」については、1～5年未満(72.2%)が最も割合が高く、次いで20年以上(54.3%)となっている。

近所の人々が、お互いに親交を  
深められる機会の減少

地域に対する親近感や愛着の  
希薄化

地域行事の減少と参加率の  
低下

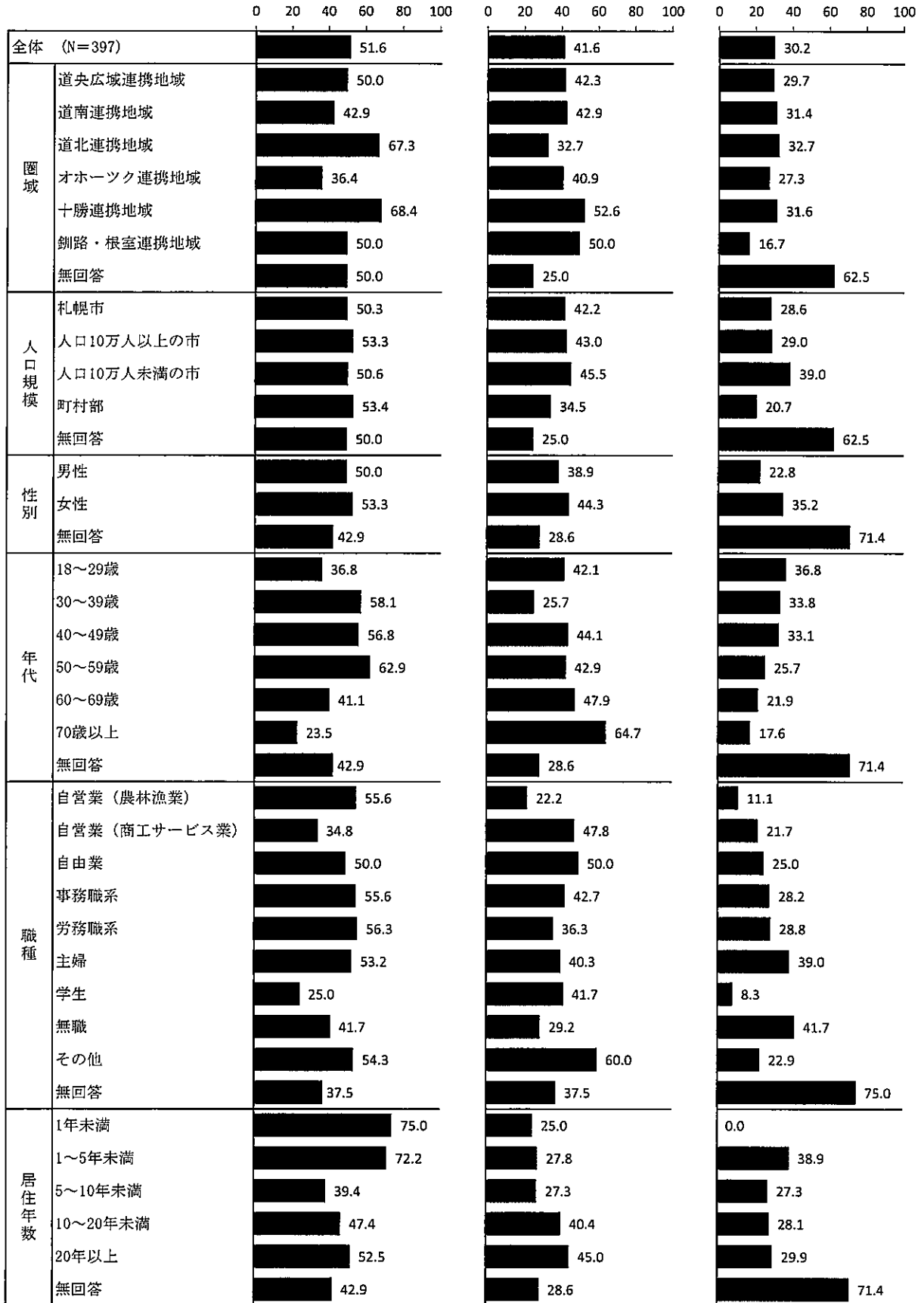




共働き家庭の増加

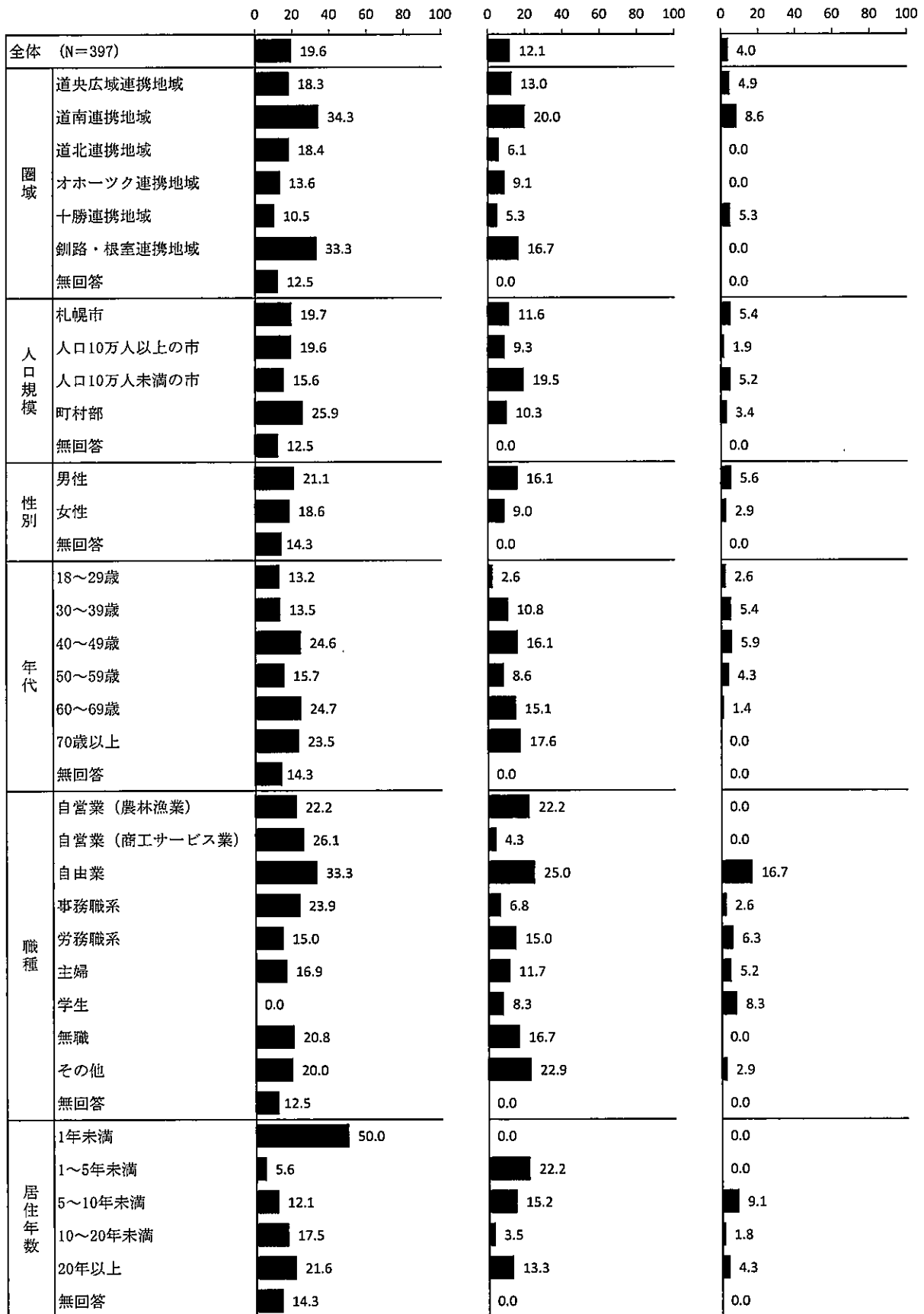
親の地域活動への参加の不足

地域が安全でなくなり、子どもを他人と交流させることへの抵抗感の増加



地域の人たちの連帯感を培う  
リーダーの不足

地域の歴史や文化、自然について学習する機会の減少  
その他



無回答

0 20 40 60 80 100

全体 (N=397)	0.0	
圏域	道央広域連携地域	0.0
	道南連携地域	0.0
	道北連携地域	0.0
	オホーツク連携地域	0.0
	十勝連携地域	0.0
	釧路・根室連携地域	0.0
	無回答	0.0
人口規模	札幌市	0.0
	人口10万人以上の市	0.0
	人口10万人未満の市	0.0
	町村部	0.0
性別	男性	0.0
	女性	0.0
	無回答	0.0
年代	18～29歳	0.0
	30～39歳	0.0
	40～49歳	0.0
	50～59歳	0.0
	60～69歳	0.0
	70歳以上	0.0
	無回答	0.0
職種	自営業（農林漁業）	0.0
	自営業（商工サービス業）	0.0
	自由業	0.0
	事務職系	0.0
	労務職系	0.0
	主婦	0.0
	学生	0.0
	無職	0.0
	その他	0.0
	無回答	0.0
居住年数	1年未満	0.0
	1～5年未満	0.0
	5～10年未満	0.0
	10～20年未満	0.0
	20年以上	0.0
	無回答	0.0

## ■「家庭及び地域の教育力について」の調査を終えて

---

家庭の教育力の低下に関する認識では、「全くそのとおりだと思う」、「ある程度そう思う」と答えた方を合わせると62.1%と、前回調査結果(平成22年度84.0%)に比べ21.9ポイント低くなり改善されているが、依然として6割以上の方は家庭の教育力が低下していると感じている。

家庭の教育力が低下していると思う原因について、「子どもに対して、過保護、甘やし過ぎや過干渉な親の増加」、「子どもに対するしつけや教育の仕方が分からない親の増加」と答えた方の割合が、それぞれの項目で6割を超えている。

また、地域の教育力の低下に関する認識では、「全くそのとおりだと思う」「ある程度そう思う」と答えた方を合わせると52.6%と、前回調査結果(平成22年度64.6%)に比べ12ポイント低くなっているが、5割以上の方は地域の教育力が低下していると感じている。

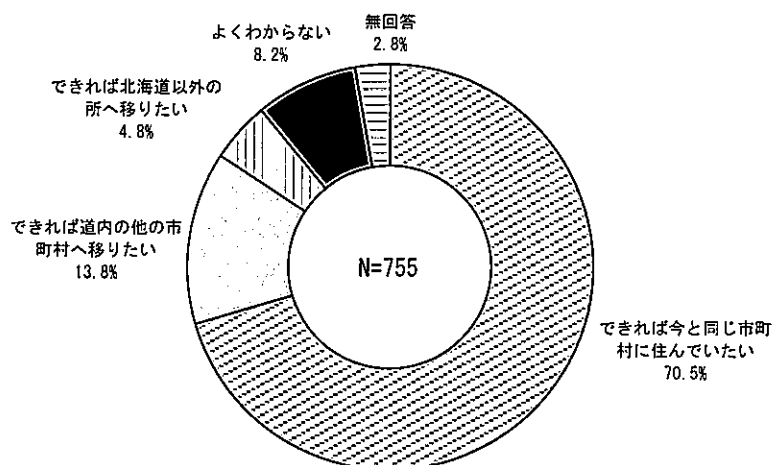
地域の教育力が低下していると思う原因について、「近所の人々が、お互いに親交を深められる機会の減少」、「地域に対する親近感や愛着の希薄化」、「共働き家族の増加」と答えた方の割合が、それぞれの項目で5割を超えている。

こうした調査結果を踏まえ、新たな北海道教育推進計画(計画期間平成30~39年度)の策定において反映させるとともに、今後の家庭教育への支援や地域の教育力の向上に向けた施策を計画的に推進していく。

(教育庁生涯学習推進局生涯学習課)

## 7 安心して暮らし続けることのできる地域づくりについて

問 33 あなたは、現在住んでいる市町村にこれからも住みたいと思いますか。  
次の中から1つだけお選びください。



### 【全体】

「できれば今と同じ市町村に住んでいたい」(70.5%)と答えた人の割合が最も高く、次いで「できれば道内の他の市町村へ移りたい」(13.8%)、「よくわからない」(8.2%)の順となっている。

### 【圏域別】

「できれば今と同じ市町村に住んでいたい」については、道央広域連携地域(73.7%)が最も割合が高く、次いで十勝連携地域(70.5%)となっている。「できれば道内の他の市町村へ移りたい」については、釧路・根室連携地域(26.5%)が最も割合が高く、次いでオホーツク連携地域(25.8%)となっている。

### 【人口規模別】

「できれば今と同じ市町村に住んでいたい」については、札幌市(82.9%)が最も割合が高く、次いで人口10万人以上の市(72.4%)となっている。「できれば道内の他の市町村へ移りたい」については、町村部(24.4%)が最も割合が高く、次いで人口10万人未満の市(22.7%)となっている。

### 【性別】

「できれば今と同じ市町村に住んでいたい」については、男性74.0%、女性67.9%となっており、「できれば道内の他の市町村へ移りたい」については、男性10.7%、女性16.7%となっている。

### 【年代別】

「できれば今と同じ市町村に住んでいたい」については、70歳以上(94.1%)が最も割合が高く、次いで60～69歳(78.0%)となっている。「できれば道内の他の市町村へ移りたい」については、18～29歳(18.1%)が最も割合が高く、次いで40～49歳(15.9%)となっている。

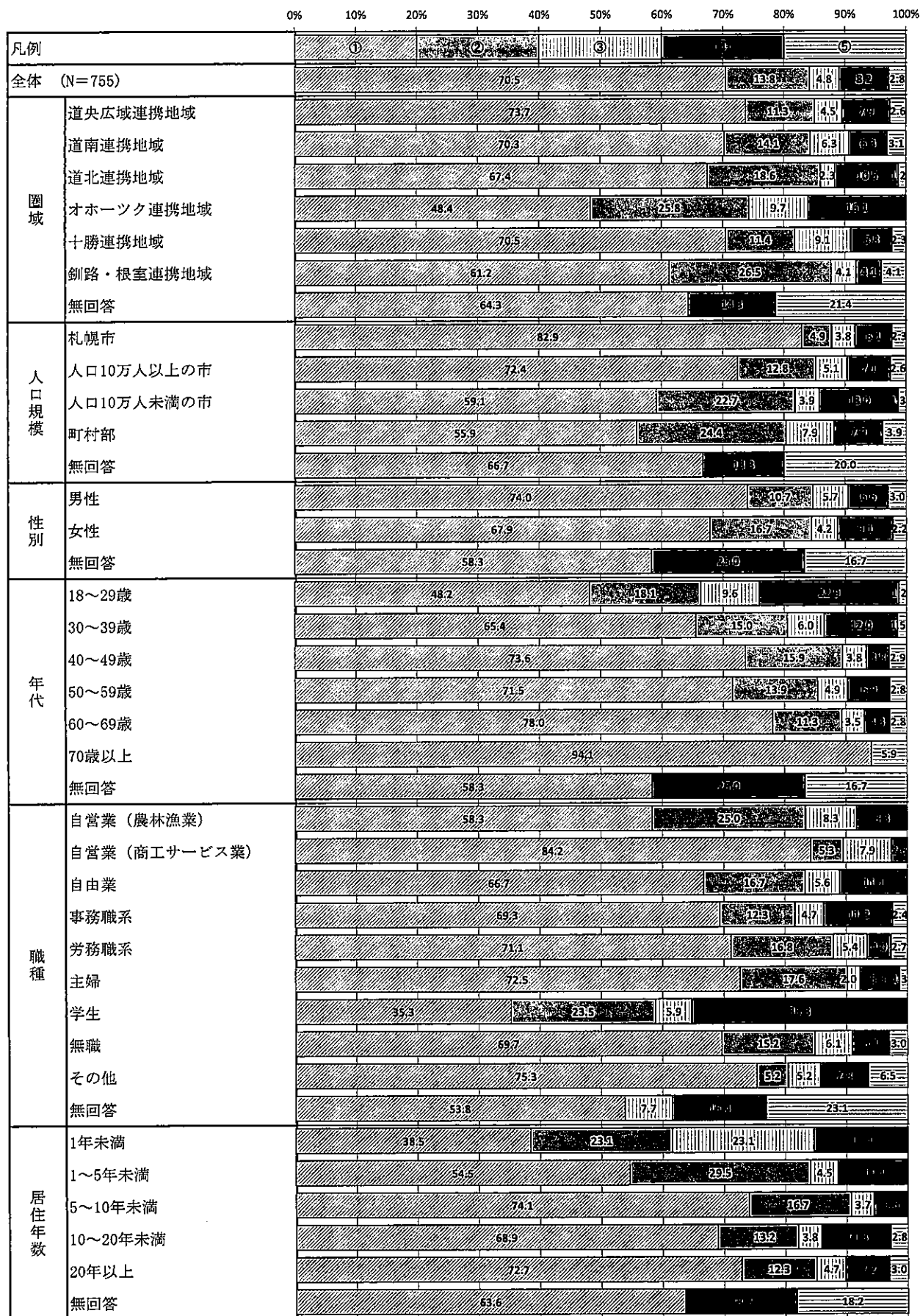
### 【職種別】

「できれば今と同じ市町村に住んでいたい」については、自営業(商工サービス業)(84.2%)が最も割合が高く、次いでその他(75.3%)となっている。「できれば道内の他の市町村へ移りたい」については、自営業(農林漁業)(25.0%)が最も割合が高く、次いで学生(23.5%)となっている。

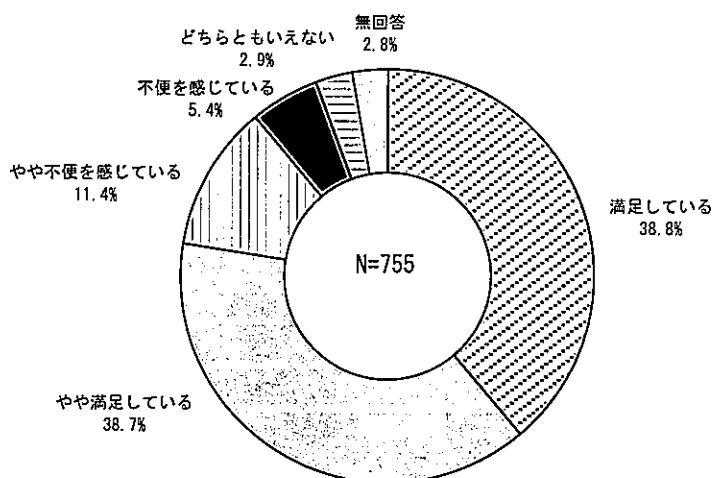
### 【居住年数別】

「できれば今と同じ市町村に住んでいたい」については、5～10年未満(74.1%)が最も割合が高く、次いで20年以上(72.7%)となっている。「できれば道内の他の市町村へ移りたい」については、1～5年未満(29.5%)が最も割合が高く、次いで1年未満(23.1%)となっている。

①できれば今と同じ市町村に住んでいたい ②できれば道内の他の市町村へ移りたい  
 ③できれば北海道以外の所へ移りたい ④よくわからない ⑤無回答



問 34 あなたは、食料品などの日々の買い物に満足を感じていますか。  
次の中から1つだけお選びください。



**【全体】**

「満足している」(38.8%)と答えた人の割合が最も高く、次いで「やや満足している」(38.7%)、「やや不便を感じている」(11.4%)の順となっている。

**【圏域別】**

「満足している」については、道央広域連携地域(43.0%)が最も割合が高く、次いで十勝連携地域(36.4%)となっている。「やや満足している」については、道北連携地域(46.5%)が最も割合が高く、次いで十勝連携地域(40.9%)となっている。

**【人口規模別】**

「満足している」については、札幌市(48.3%)が最も割合が高く、次いで人口10万人以上の市(44.4%)となっている。「やや満足している」については、人口10万人未満の市(39.6%)が最も割合が高く、次いで町村部(39.4%)となっている。

**【性別】**

「満足している」については、男性43.0%、女性36.0%となっており、「やや満足している」については、男性36.4%、女性40.4%となっている。

**【年代別】**

「満足している」については、70歳以上(50.0%)が最も割合が高く、次いで50～59歳(42.4%)となっている。「やや満足している」については、60～69歳(44.7%)が最も割合が高く、次いで30～39歳(42.1%)となっている。

**【職種別】**

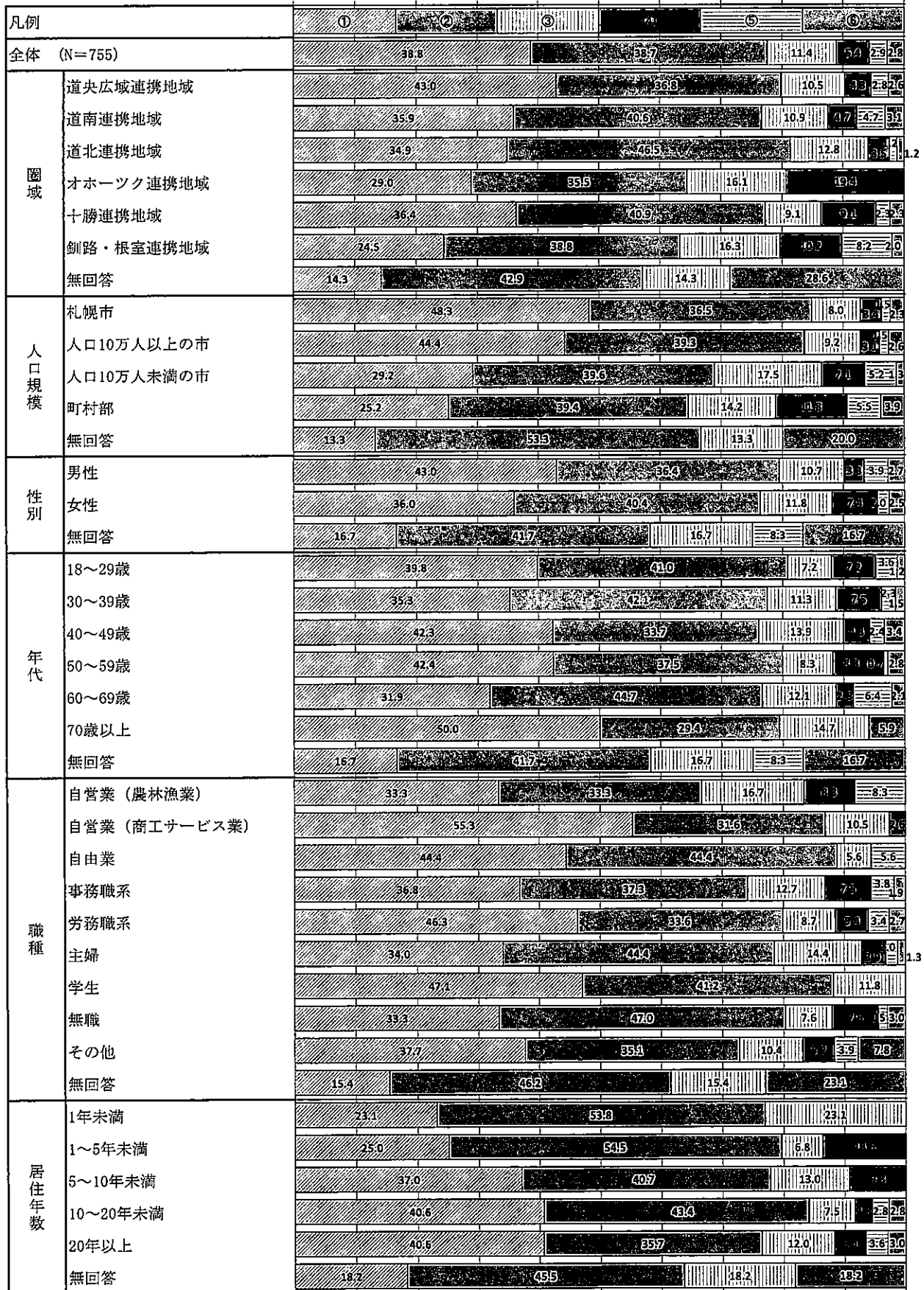
「満足している」については、自営業(商工サービス業)(55.3%)が最も割合が高く、次いで学生(47.1%)となっている。「やや満足している」については、無職(47.0%)が最も割合が高く、次いで自由業(44.4%)と主婦(44.4%)となっている。

**【居住年数別】**

「満足している」については、10～20年未満(40.6%)と20年以上(40.6%)が最も割合が高く、次いで5～10年未満(37.0%)となっている。「やや満足している」については、1～5年未満(54.5%)が最も割合が高く、次いで1年未満(53.8%)となっている。

①満足している ②やや満足している ③やや不便を感じている  
 ④不便を感じている ⑤どちらともいえない ⑥無回答

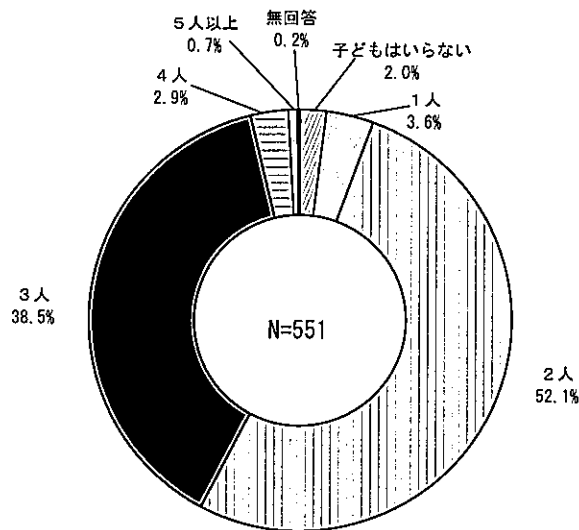
0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%





問 35 ※結婚されている方のみお答えください。

あなたにとって、理想的な子どもの数は何人ですか。次の中から1つだけお選びください。



**【全体】**

「2人」(52.1%)と答えた人の割合が最も高く、次いで「3人」(38.5%)、「1人」(3.6%)の順となっている。

**【圏域別】**

「2人」については、道南連携地域(61.7%)が最も割合が高く、次いで道北連携地域(56.1%)となっている。「3人」については、釧路・根室連携地域(52.6%)が最も割合が高く、次いで十勝連携地域(50.0%)となっている。

**【人口規模別】**

「2人」については、札幌市(57.4%)が最も割合が高く、次いで人口10万人以上の市(51.4%)となっている。「3人」については、町村部(43.2%)が最も割合が高く、次いで人口10万人以上の市(42.0%)となっている。

**【性別】**

「2人」については、男性52.2%、女性52.4%となっており、「3人」については、男性36.9%、女性39.5%となっている。

**【年代別】**

「2人」については、40~49歳(60.6%)が最も割合が高く、次いで18~29歳(60.0%)となっている。「3人」については、70歳以上(52.2%)が最も割合が高く、次いで60~69歳(47.3%)となっている。

**【職種別】**

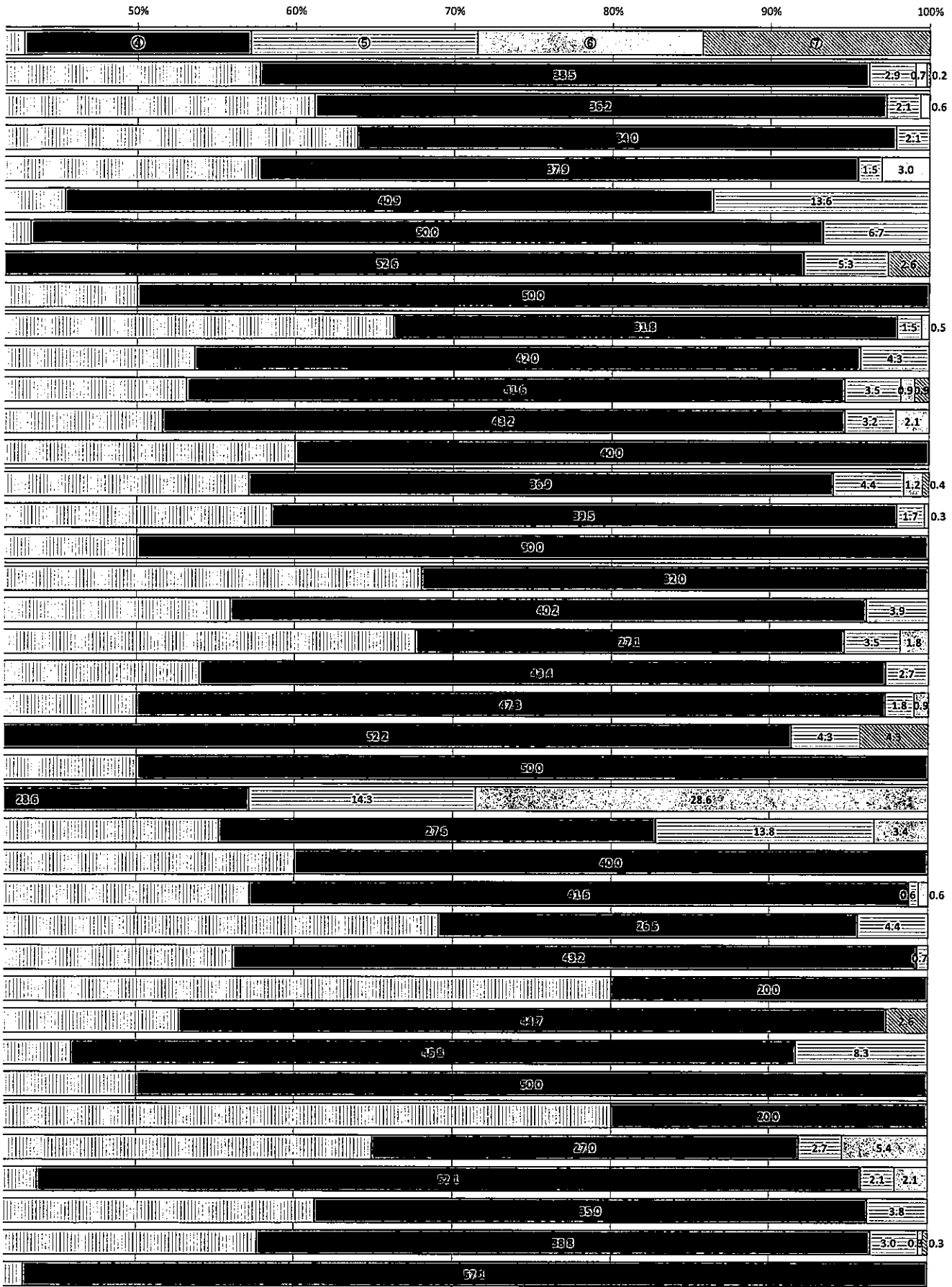
「2人」については、学生(80.0%)が最も割合が高く、次いで労務職系(62.8%)となっている。「3人」については、その他(45.8%)が最も割合が高く、次いで無職(44.7%)となっている。

**【居住年数別】**

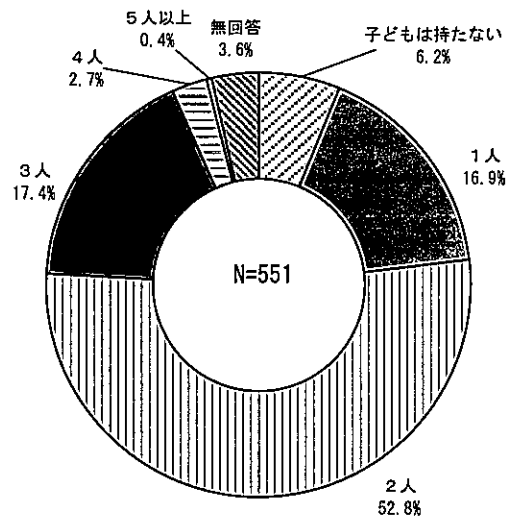
「2人」については、1年未満(80.0%)が最も割合が高く、次いで1~5年未満(59.5%)となっている。「3人」については、5~10年未満(52.1%)が最も割合が高く、次いで20年以上(38.8%)となっている。

①子どもはいない ②1人 ③2人 ④3人 ⑤4人 ⑥5人以上 ⑦無回答

		0%	10%	20%	30%	40%
凡例		①		②		③
全体 (N=551)		2.0	36.1			52.1
圏域	道央広域連携地域	1.8	53			54.1
	道南連携地域	2.3				61.7
	道北連携地域	1.5				56.1
	オホーツク連携地域	4.5			40.9	
	十勝連携地域	3.3		40.0		
	釧路・根室連携地域	2.6		36.8		
	無回答	12.5	12.5			25.0
人口規模	札幌市	3.1	36			57.4
	人口10万人以上の市	1.4	0.7		51.4	
	人口10万人未満の市		5.2			46.9
	町村部	1.1	15			49.5
	無回答	20.0				40.0
性別	男性	1.6	3.2			52.2
	女性	2.0	4.1			52.4
	無回答	12.5				37.5
年代	18～29歳	4.0	4.0			60.0
	30～39歳	6.9				49.0
	40～49歳	4.1	2.9			60.6
	50～59歳	0.9	3.5			49.6
	60～69歳	0.9	2.7			46.4
	70歳以上			39.1		
	無回答	12.5				37.5
職種	自営業（農林漁業）			28.6		
	自営業（商工サービス業）				55.2	
	自由業			20.0		40.0
	事務職系	3.9	1.3			51.9
	労務職系	1.8	4.0			62.8
	主婦	3.6				52.5
	学生					80.0
	無職	2.6	11.2			36.8
	その他	2.1	2.1		41.7	
	無回答	12.5				37.5
居住年数	1年未満					80.0
	1～5年未満	2.7	2.7			59.5
	5～10年未満	6.9			37.5	
	10～20年未満	1.9	3.0			56.3
	20年以上	2.7	3.9			52.0
	無回答	14.3			28.6	



問 36 ※結婚されている方のみお答えください。  
あなたは、何人のお子さんを持つおつもりですか。次の中から1つだけお選びください。



**【全体】**

「2人」(52.8%)と答えた人の割合が最も高く、次いで「3人」(17.4%)、「1人」(16.9%)の順となっている。

**【圏域別】**

「2人」については、道北連携地域(62.1%)が最も割合が高く、次いで道央広域連携地域(53.5%)となっている。「3人」については、釧路・根室連携地域(28.9%)が最も割合が高く、次いで十勝連携地域(26.7%)となっている。

**【人口規模別】**

「2人」については、人口10万人以上の市(59.4%)が最も割合が高く、次いで札幌市(52.3%)となっている。「3人」については、町村部(26.3%)が最も割合が高く、次いで人口10万人未満の市(16.8%)となっている。

**【性別】**

「2人」については、男性51.4%、女性54.1%となっており、「3人」については、男性17.7%、女性17.0%となっている。

**【年代別】**

「2人」については、70歳以上(78.3%)が最も割合が高く、次いで30~39歳(55.9%)となっている。「3人」については、18~29歳(24.0%)が最も割合が高く、次いで60~69歳(23.6%)となっている。

**【職種別】**

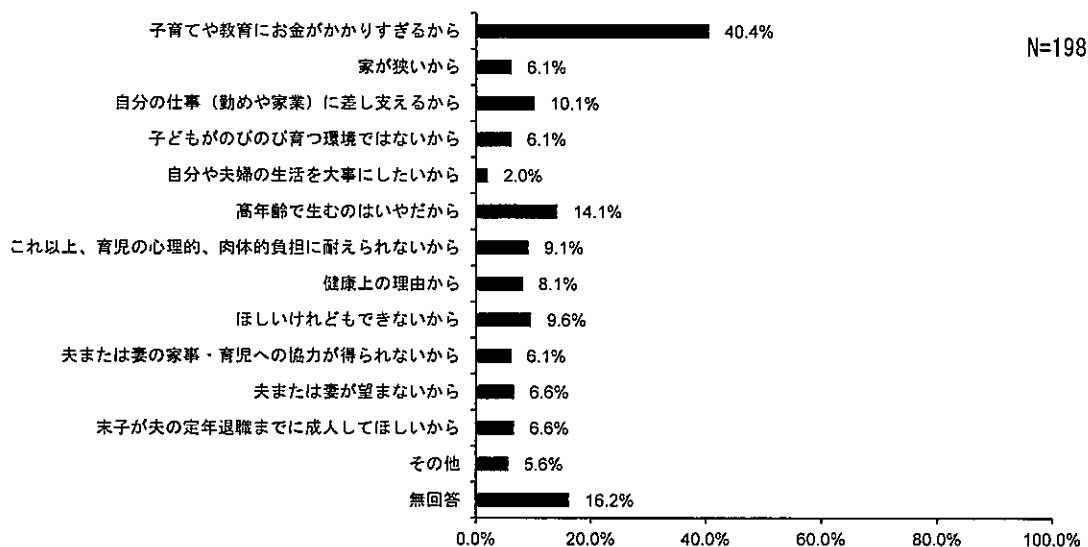
「2人」については、学生(80.0%)が最も割合が高く、次いで主婦(58.3%)となっている。「3人」については、自由業(30.0%)が最も割合が高く、次いでその他(20.8%)となっている。

**【居住年数別】**

「2人」については、20年以上(55.3%)が最も割合が高く、次いで10~20年未満(52.5%)となっている。「3人」については、5~10年未満(22.9%)が最も割合が高く、次いで10~20年未満(18.8%)となっている。

問 37-① ※結婚されている方のみお答えください。

問 36 で選んだ「実際に持つつもりの子どもの数」が、問 35 で選んだ「理想とする子どもの数」に比べて少ない方に伺います。その理由は何ですか。次の中から、いくつでもお選びください。



#### 【全体】

「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」（40.4%）と答えた人の割合が最も高く、次いで「高年齢で生むのはいやだから」（14.1%）、「自分の仕事（勤めや家業）に差し支えるから」（10.1%）の順となっている。

#### 【圏域別】

「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」については、釧路・根室連携地域（70.6%）が最も割合が高く、次いでオホーツク連携地域（62.5%）となっている。「高年齢で生むのはいやだから」については、釧路・根室連携地域（23.5%）が最も割合が高く、次いで道南連携地域（15.0%）となっている。

#### 【人口規模別】

「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」については、町村部（48.1%）が最も割合が高く、次いで札幌市（44.7%）となっている。「高年齢で生むのはいやだから」については、人口10万人未満の市（16.3%）が最も割合が高く、次いで町村部（14.8%）となっている。

#### 【性別】

「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」については、男性 37.5%、女性 43.1%となっており、「高年齢で生むのはいやだから」については、男性 15.0%、女性 13.8%となっている。

#### 【年代別】

「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」については、18～29歳（60.0%）が最も割合が高く、次いで70歳以上（54.5%）となっている。「高年齢で生むのはいやだから」については、40～49歳（20.3%）が最も割合が高く、次いで60～69歳（15.6%）となっている。

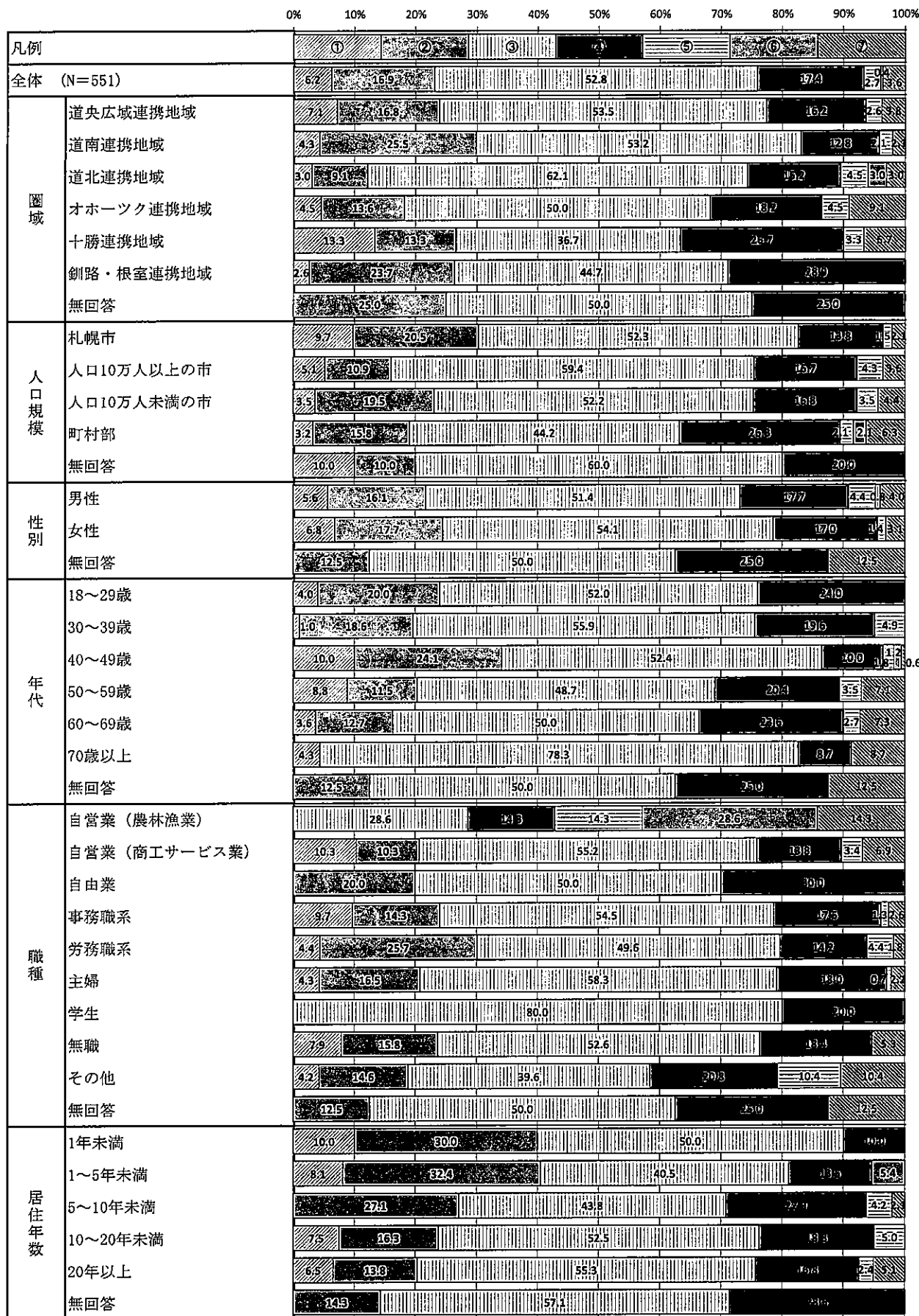
#### 【職種別】

「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」については、その他（84.6%）が最も割合が高く、次いで主婦（43.4%）となっている。「高年齢で生むのはいやだから」については、自由業（50.0%）が最も割合が高く、次いで自営業（商工サービス業）（23.1%）となっている。

#### 【居住年数別】

「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」については、1年未満（80.0%）が最も割合が高く、次いで5～10年未満（59.1%）となっている。「高年齢で生むのはいやだから」については、1年未満（40.0%）が最も割合が高く、次いで20年以上（16.9%）となっている。

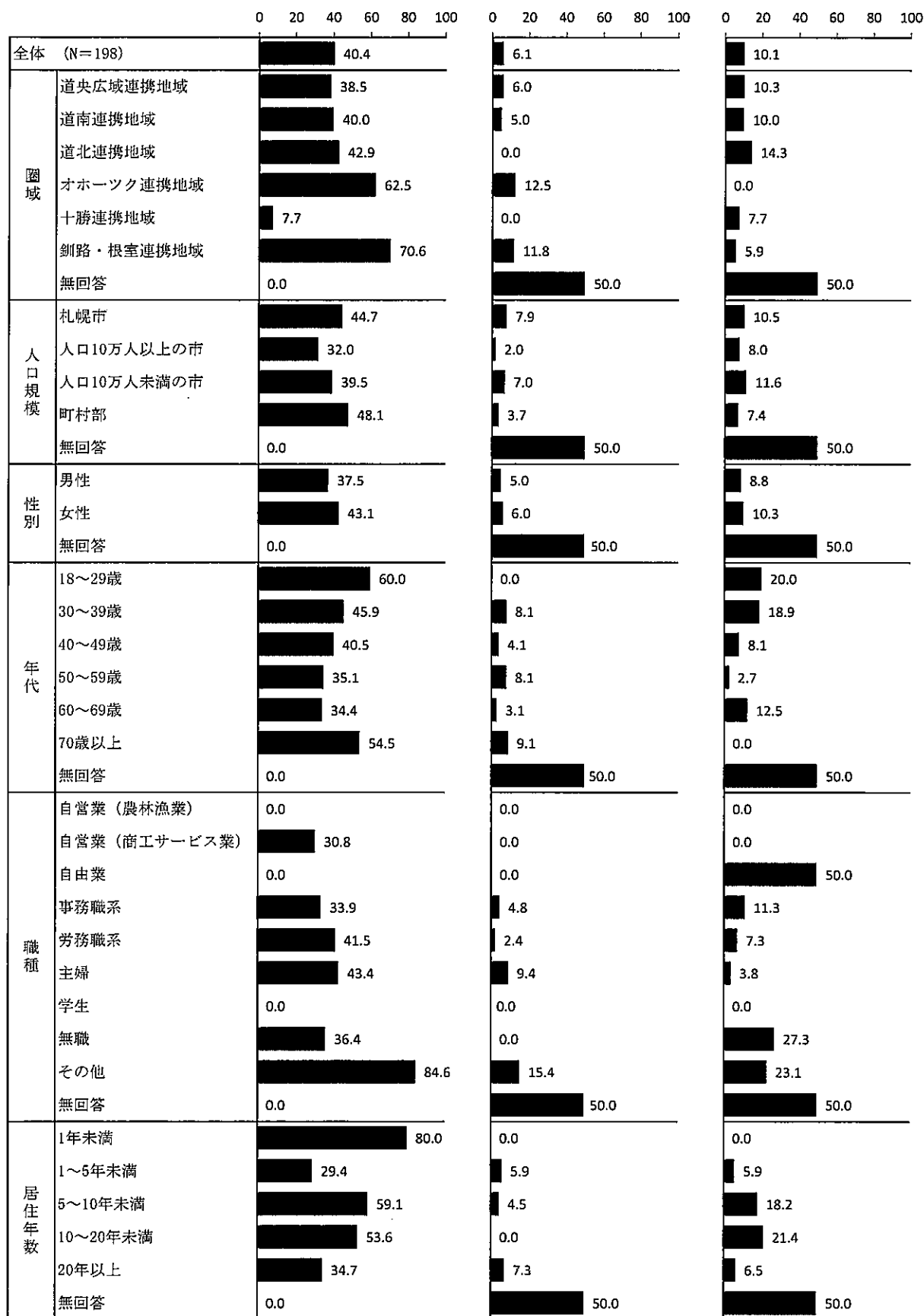
①子どもはらない ②1人 ③2人 ④3人 ⑤4人 ⑥5人以上 ⑦無回答



子育てや教育にお金がかかりすぎるから

家が狭いから

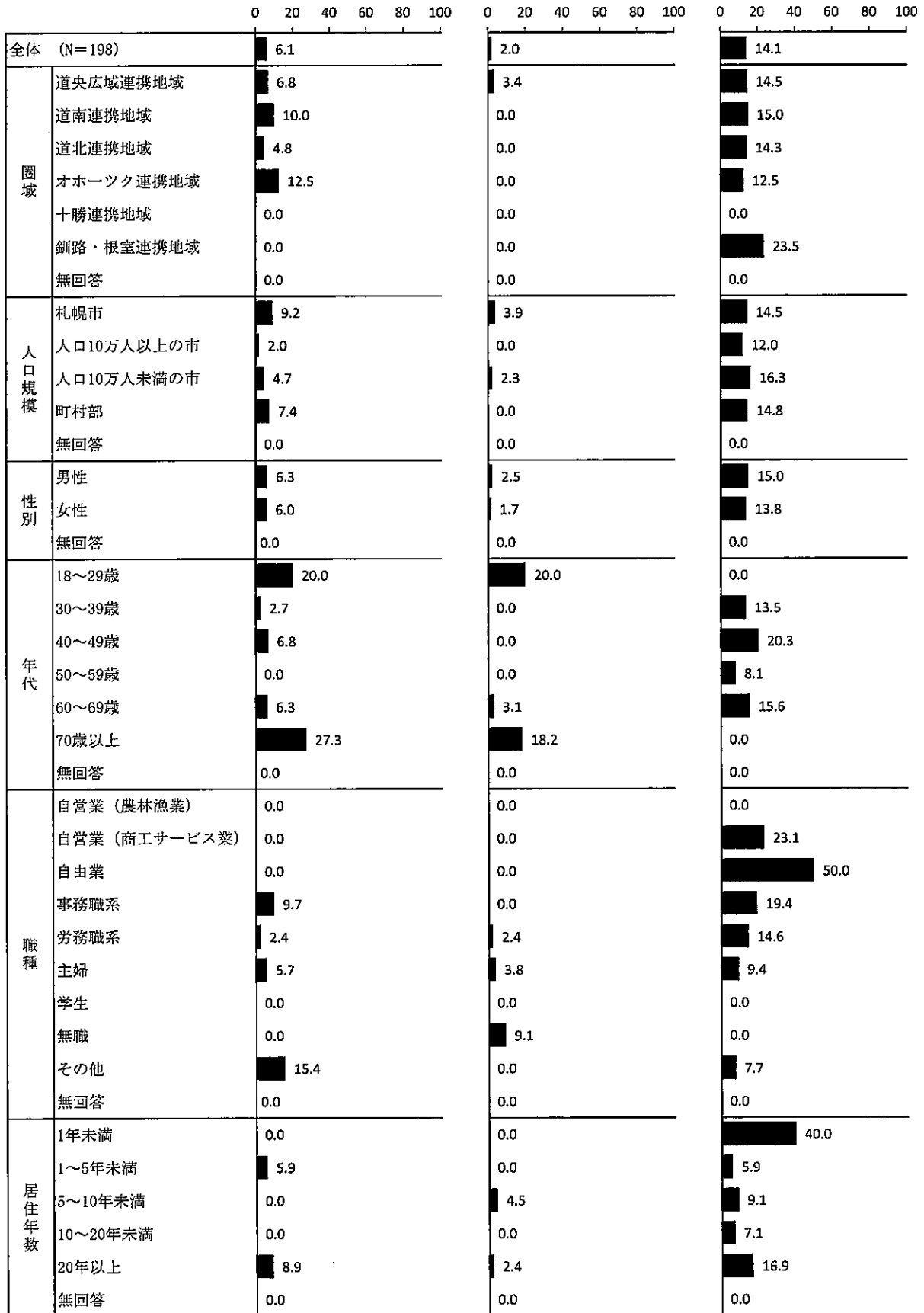
自分の仕事（勤めや家業）に差し支えるから



子どもがのびのび育つ環境ではないから

自分や夫婦の生活を大事にしたいから

高齢で生むのはいやだから

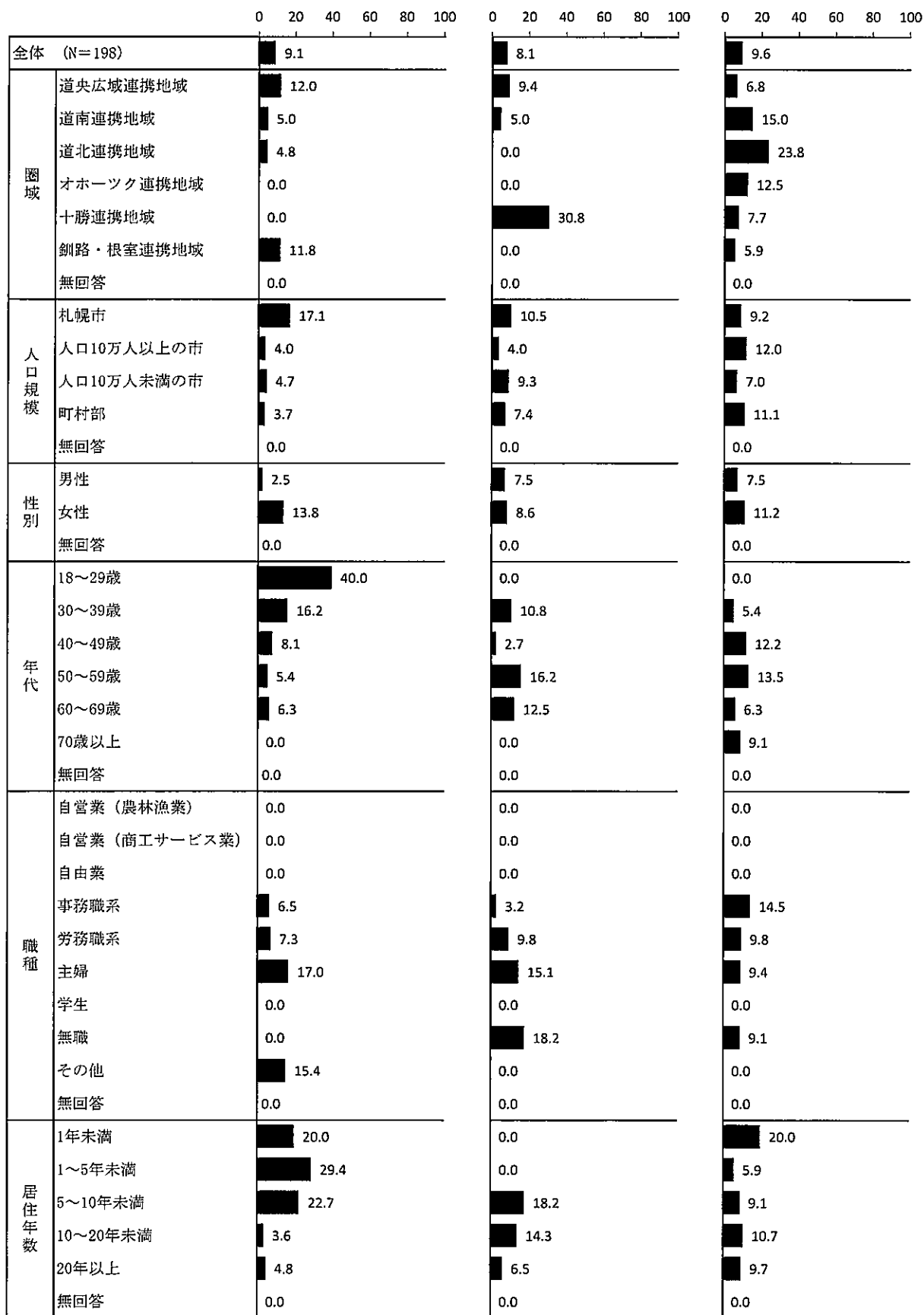




これ以上、育児の心理的、肉体的負担に耐えられないから

健康上の理由から

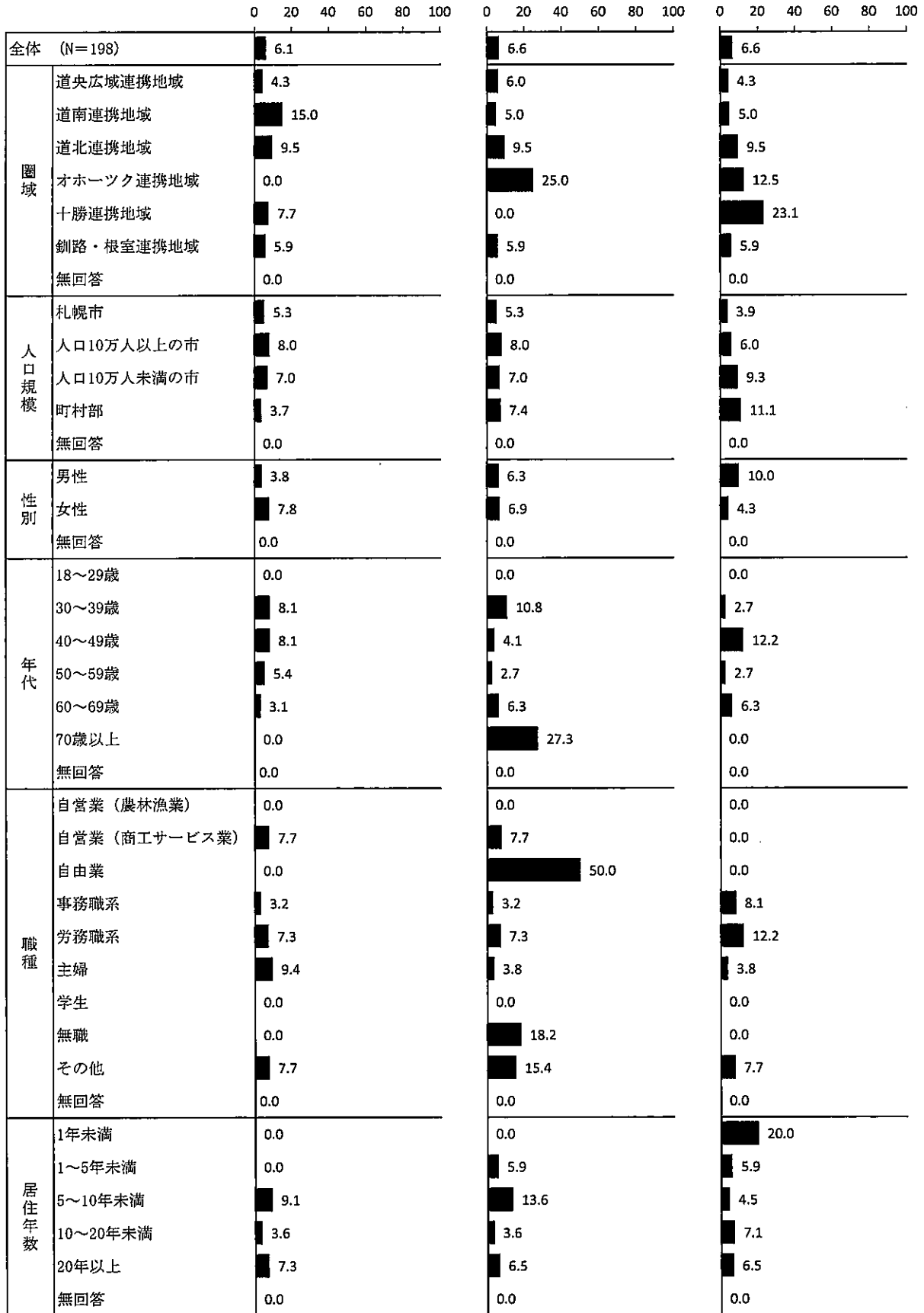
ほしいけれどもできないから

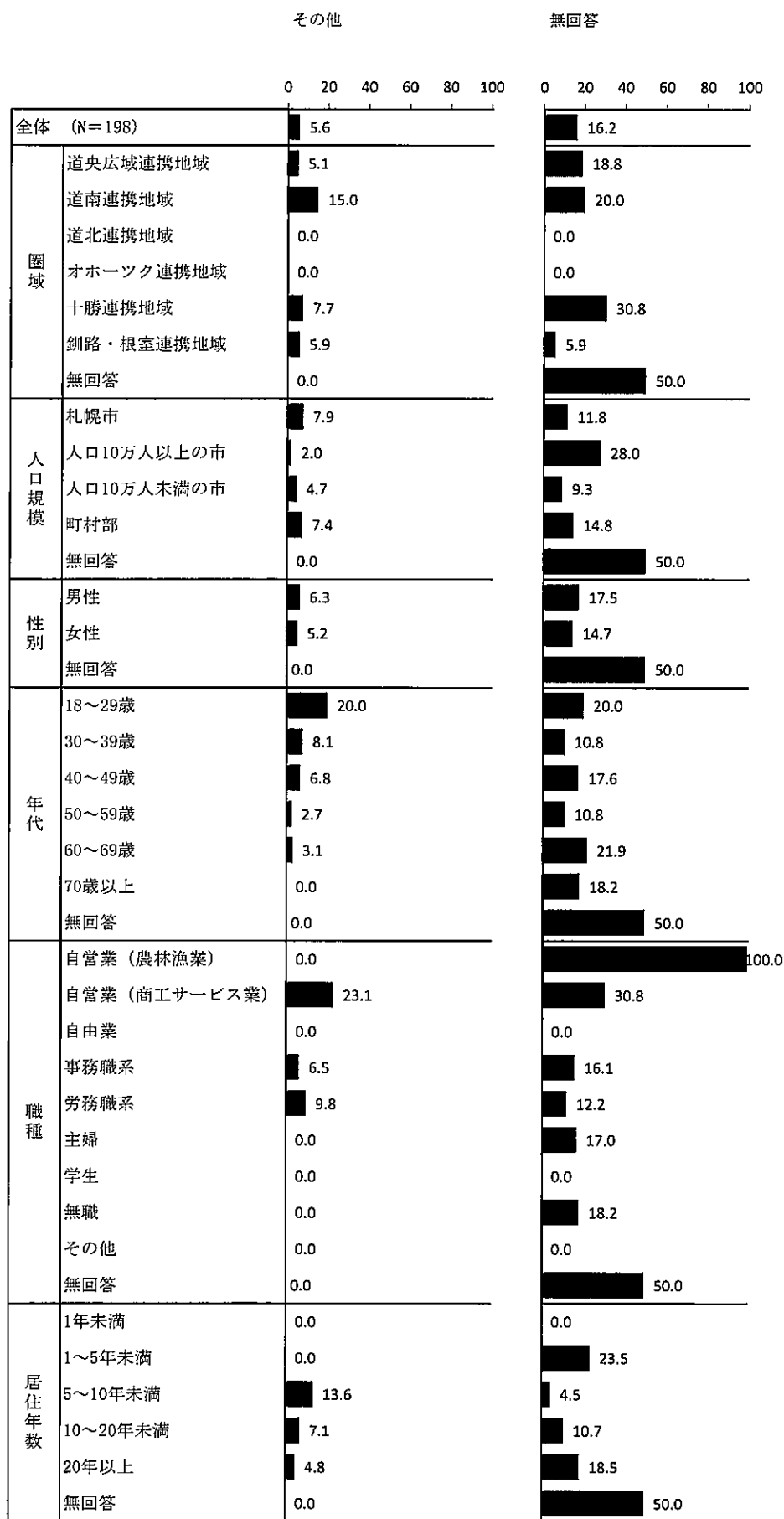


夫または妻の家事・育児への  
協力が得られないから

夫または妻が望まないから

末子が夫の定年退職までに成  
人してほしいから

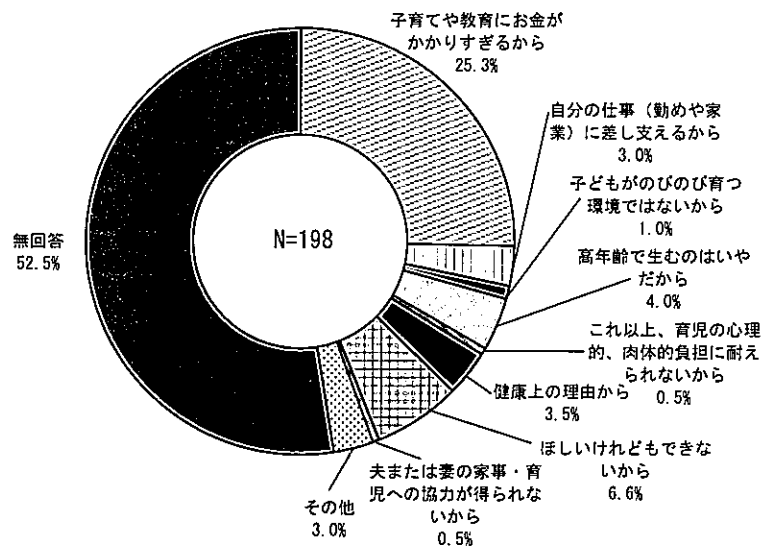






問 37-② ※結婚されている方のみお答えください。

問 36 で選んだ「実際に持つつもりの子どもの数」が、問 35 で選んだ「理想とする子どもの数」に比べて少ない方に伺います。次の理由の中で最も重要な理由を1つだけ選び◎を付けてください。



【全体】

「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」（25.3%）と答えた人の割合が最も高く、次いで「ほしいけれどもできないから」（6.6%）、「高齢で生むのはいやだから」（4.0%）の順となっている。

【圏域別】

「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」については、十勝連携地域（38.5%）が最も割合が高く、次いで道北連携地域（28.6%）となっている。「ほしいけれどもできないから」については、オホーツク連携地域（12.5%）が最も割合が高く、次いで道央広域連携地域（10.3%）となっている。

【人口規模別】

「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」については、人口 10 万人以上の市（32.0%）が最も割合が高く、次いで札幌市（23.7%）となっている。「ほしいけれどもできないから」については、人口 10 万人未満の市（11.6%）が最も割合が高く、次いで人口 10 万人以上の市（6.0%）となっている。

【性別】

「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」については、男性 26.3%、女性 24.1%となっており、「ほしいけれどもできないから」については、男性 8.8%、女性 5.2%となっている。

【年代別】

「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」については、18～29 歳（40.0%）が最も割合が高く、次いで 70 歳以上（36.4%）となっている。「ほしいけれどもできないから」については、60～69 歳（12.5%）が最も割合が高く、次いで 40～49 歳（9.5%）となっている。

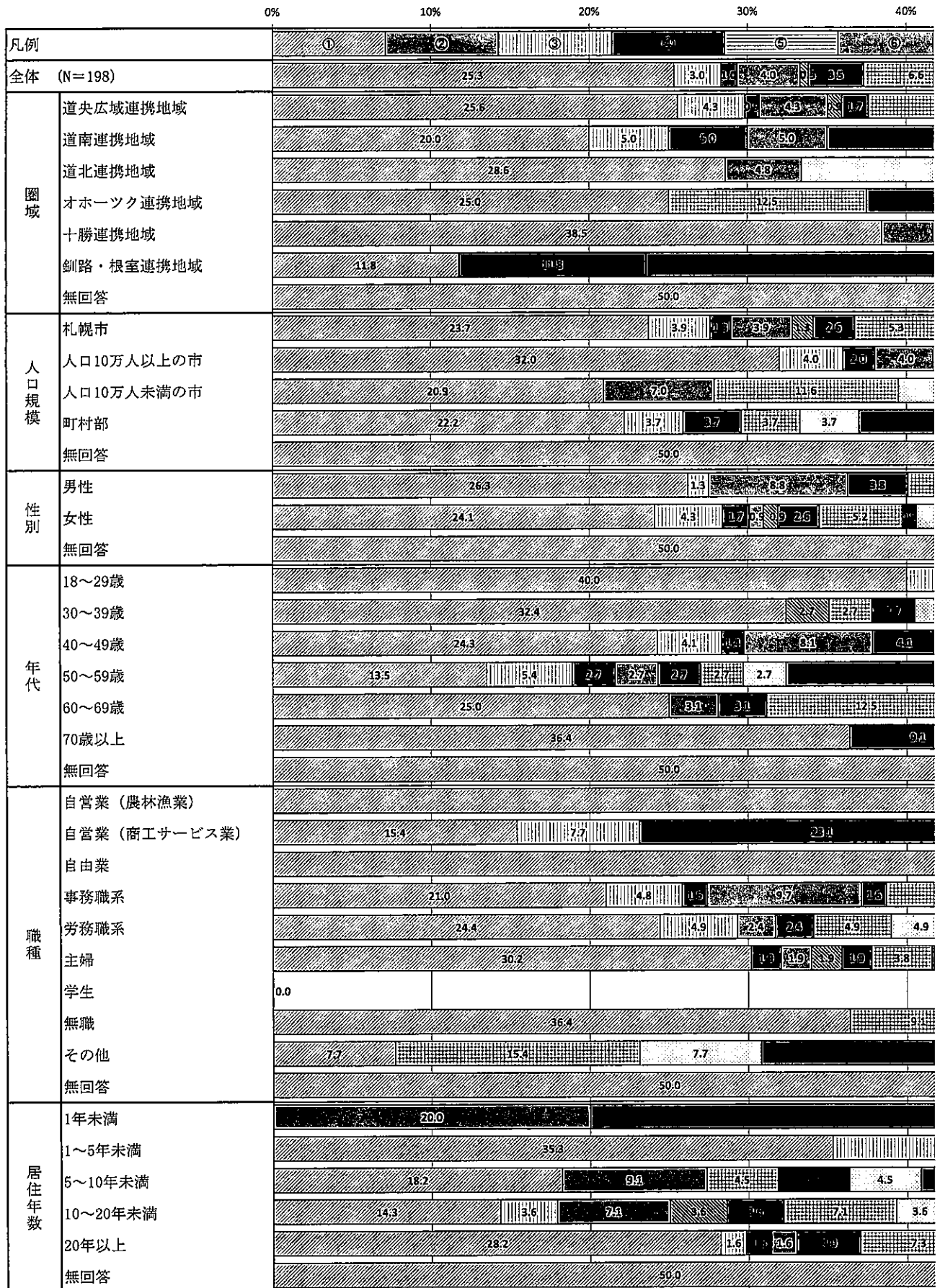
【職種別】

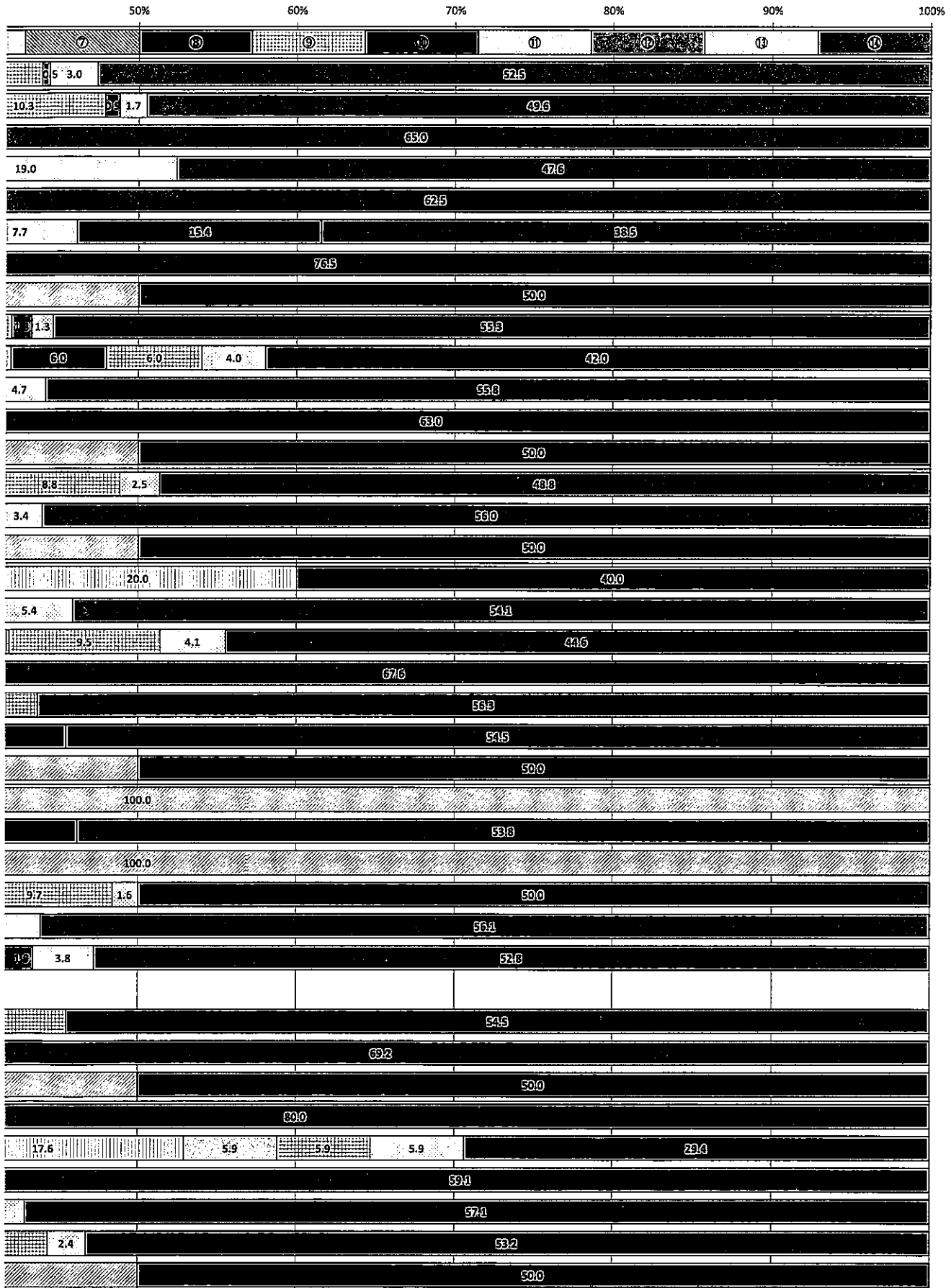
「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」については、自営業（農林漁業）（100.0%）と自由業（100.0%）が最も割合が高く、次いで無職（36.4%）となっている。「ほしいけれどもできないから」については、その他（15.4%）が最も割合が高く、次いで事務職系（9.7%）となっている。

【居住年数別】

「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」については、1～5 年未満（35.3%）が最も割合が高く、次いで 20 年以上（28.2%）となっている。「ほしいけれどもできないから」については、20 年以上（7.3%）が最も割合が高く、次いで 10～20 年未満（7.1%）となっている。

- ①子育てや教育にお金がかかりすぎるから ②家が狭いから ③自分の仕事（勤めや家業）に差し支えるから ④子どもがのびのび育つ環境ではないから  
 ⑤自分や夫婦の生活を大事にしたいから ⑥高齢で生むのはいやだから ⑦これ以上、育児の心理的、肉体的負担に耐えられないから  
 ⑧健康上の理由から ⑨ほしいけれどもできないから ⑩夫または妻の家事・育児への協力が得られないから ⑪夫または妻が望まないから  
 ⑫末子が夫の定年退職までに成人してほしいから ⑬その他 ⑭無回答





## ■「安心して暮らし続けることのできる地域づくりについて」の調査を終えて

居住市町村に関する意識については、約7割の方が「できれば今と同じ市町村に住んでいたい」と回答されており、食料品などの日々の買い物の満足度に関しては、「満足している」若しくは「やや満足している」と回答された方が7割以上であった。

出産・子育てに関する意識について、実際に持つつもりの子どもの数が理想と比べて少ない理由は、「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」（40.4%）と回答された方が最も多く、次いで「高年齢で生むのはいやだから」（14.1%）、「自分の仕事（勤めや家業）に差し支えるから」（10.1%）となっている。

これらの調査結果も踏まえ、道内市町村をはじめ※産学官金労言の幅広い関係者と連携しながら、人口減少がもたらす様々な課題の解決に向けて、北海道創生総合戦略（推進期間：平成27～31年度）に基づき諸般の施策を計画的に推進していく。

（総合政策部地域創生局地域戦略課）

### ※産学官金労言

「産」＝ 経済・産業団体、保健・福祉関係団体、企業等

「学」＝ 大学、教育機関、研究機関等

「官」＝ 国、都道府県、市町村等

「金」＝ 金融機関

「労」＝ 労働組合、労働関係団体等

「言」＝ 報道機関等